

2016年7月15日
平成28年度第1回都道府県
肝疾患診療連携拠点病院
医師、責任者向け研修会プログラム

肝疾患患者相談支援システムの
実用化に向けて患者さんの声から
今後の課題と研究テーマを見出す

国立病院機構長崎医療センター
八橋 弘

本日の目次

1.病態別の患者の実態把握のための調査
および肝炎患者の病態に即した相談に対
応できる相談員育成のための研修プログ
ラム策定に関する研究 2011-2013年

2.肝疾患患者を対象とした相談支援シ
ステムの構築、運用、評価に関する研
究 2014-2016年

3.相談内容から研究テーマを模索する

「病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究」

2011-2013年

研究代表者

国立病院機構長崎医療センター

八橋 弘

研究協力者

国立病院機構北海道医療センター

大原 行雄

国立病院機構仙台医療センター

眞野 浩

国立病院機構岡山医療センター

山下 晴弘

国立病院機構

四国こどもとおとなの医療センター

林 亨

国立病院機構相模原病院

中村 陽子

国立病院機構嬉野医療センター

有尾 啓介

国立病院機構東京医療センター

高橋 正彦

国立病院機構米子医療センター

山本 哲夫

国立病院機構別府医療センター

酒井 浩徳

国立病院機構西群馬病院

蒔田 富士雄

国立病院機構東広島医療センター

竹崎 英一

国立病院機構旭川医療センター

西村 英夫

国立病院機構南和歌山医療センター

加藤 道夫

国立病院機構高崎総合医療センター

高木 均

国立病院機構名古屋医療センター

/東名古屋病院

平嶋 昇

国立病院機構岩国医療センター

牧野 泰裕

国立病院機構信州上田医療センター

吉澤 要

国立病院機構下志津病院

富澤 稔

研究分担者

国立病院機構まつもと医療センター

古田 清

国立病院機構災害医療センター

平田 啓一

国立病院機構九州医療センター

中牟田 誠

国立病院機構大阪医療センター

三田 英治

国立病院機構東京病院

上司 裕史

国立病院機構呉医療センター

高野 弘嗣

国立病院機構大阪南医療センター

脇岡 泰三

国立病院機構大分医療センター

室 豊吉

国立病院機構横浜医療センター

小松 達司

国立国際医療研究センター

正木 尚彦

国立病院機構金沢医療センター

太田 肇

国立病院機構小倉医療センター

佐藤 丈顕

国立病院機構京都医療センター

米田 俊貴

国立病院機構名古屋医療センター

島田 昌明

国立病院機構熊本医療センター

杉 和洋

国立病院機構西埼玉中央病院

二上 敏樹

国立大学法人長崎大学

中尾 一彦

国立大学法人久留米大学

矢野 博久

解析実務委託：株式会社ブレイン・フォース・システム 山内勉 澤田昭 河村佳洋

肝疾患患者に対するアンケート調査

調査期間： 2012 年2月1日～7月31日

調査施設：

国立病院機構33施設と国立国際医療研究センターの34 施設

調査対象：

上記医療施設に通院しているB 型、C 型肝炎ウイルスに起因する慢性肝炎、肝硬変、肝臓患者 および脂肪肝その他の患者を含む 9,952 名

アンケート回収率： 63.6% (6331/9952)

アンケートの設問数： 78設問、 調査項目： 212項目

アンケート回答者(N=6331)の背景因子（１）

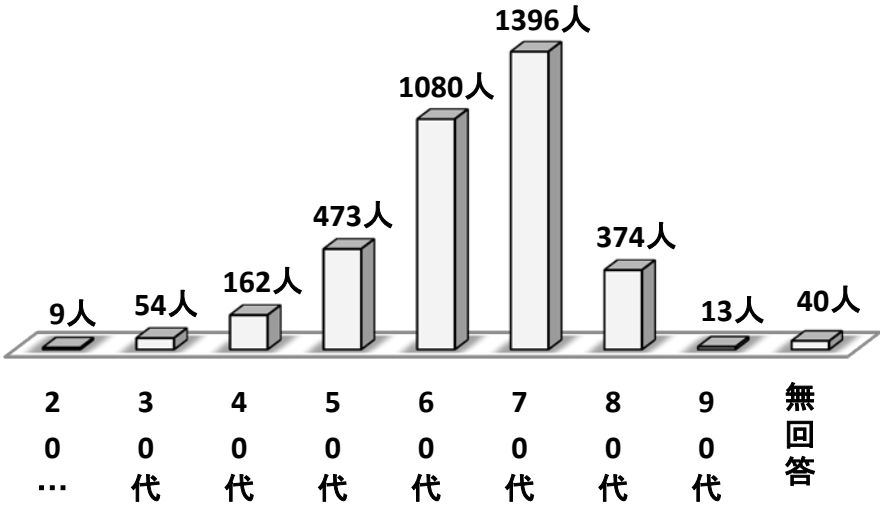
C型肝炎	3601(57%)
B型肝炎	1478(23%)
B/C以外	1252(20%)
合計	6331(100%)

1. 慢性肝炎	3225(51%)
2. 肝硬変	1043(17%)
3. 肝癌	643(10%)
4. キャリアー	626(10%)
5. 脂肪肝	483(8%)
6. その他	740
不明	4
無回答	236
合計	7000

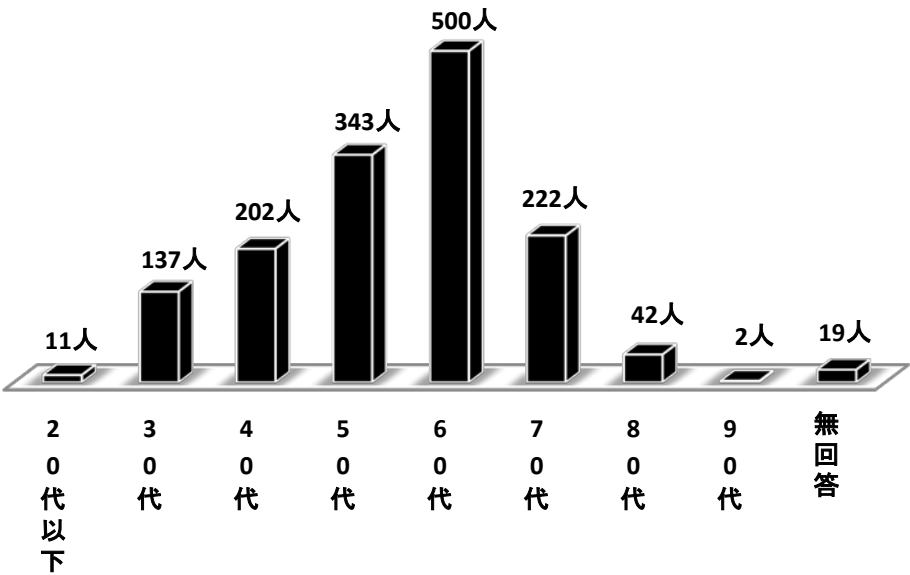
アンケート回答者(N=6331)の背景因子（2）

男性	女性	無回答	総計
2818 (45%)	3465 (55%)	48 (0.8%)	6331

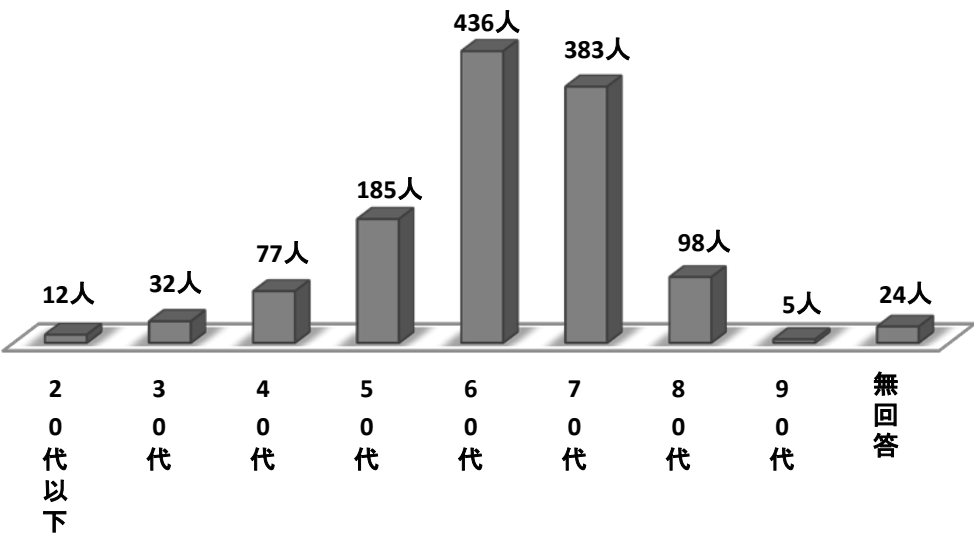
C型 (N=3601)



B型 (N=1478)

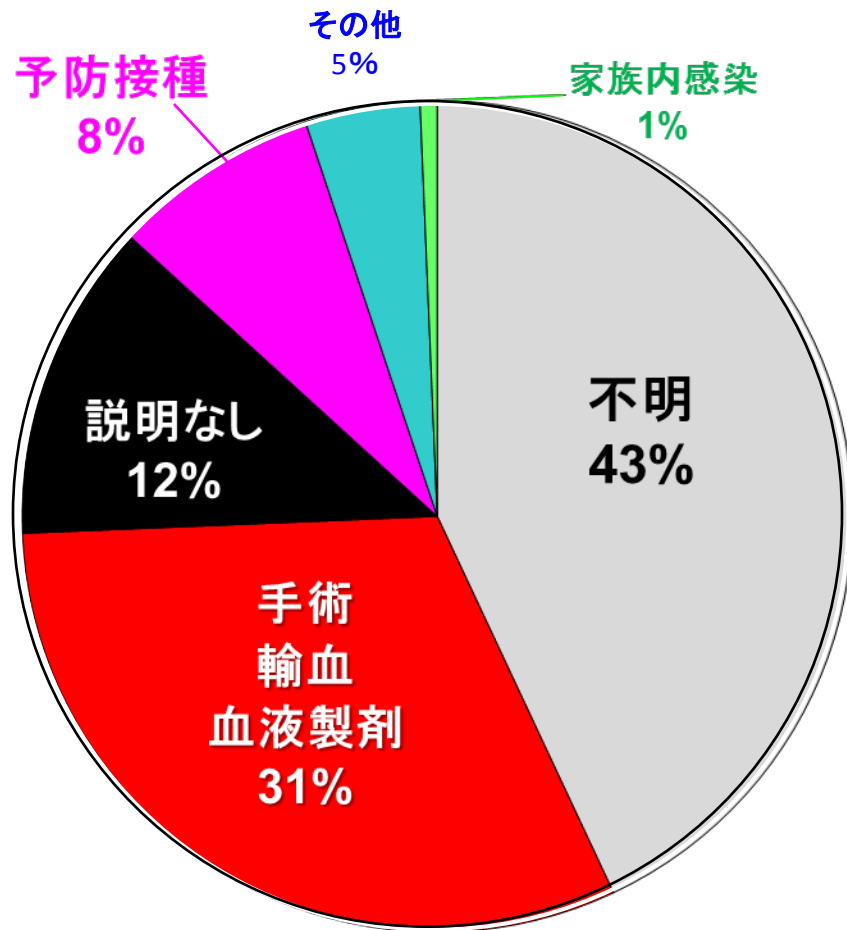


B/C以外 (N=1252)

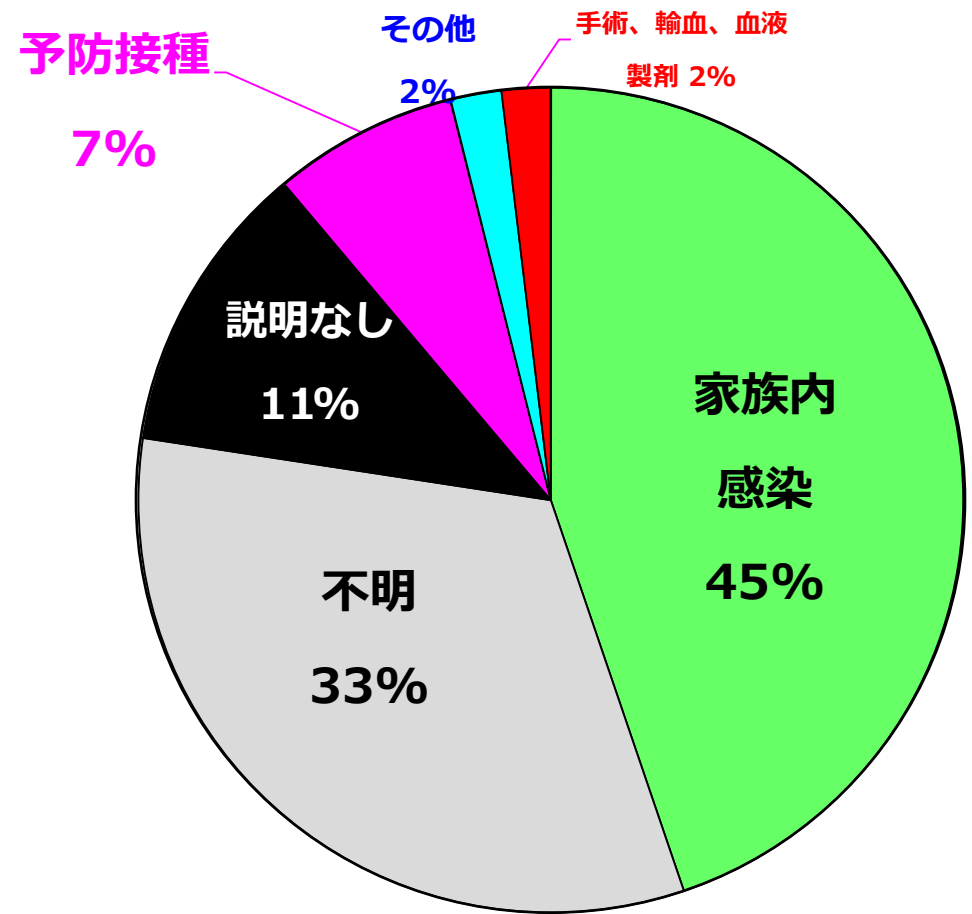


肝炎の感染経路について主治医から どのように説明を受けていますか。

C型慢性肝炎 (N=2557)

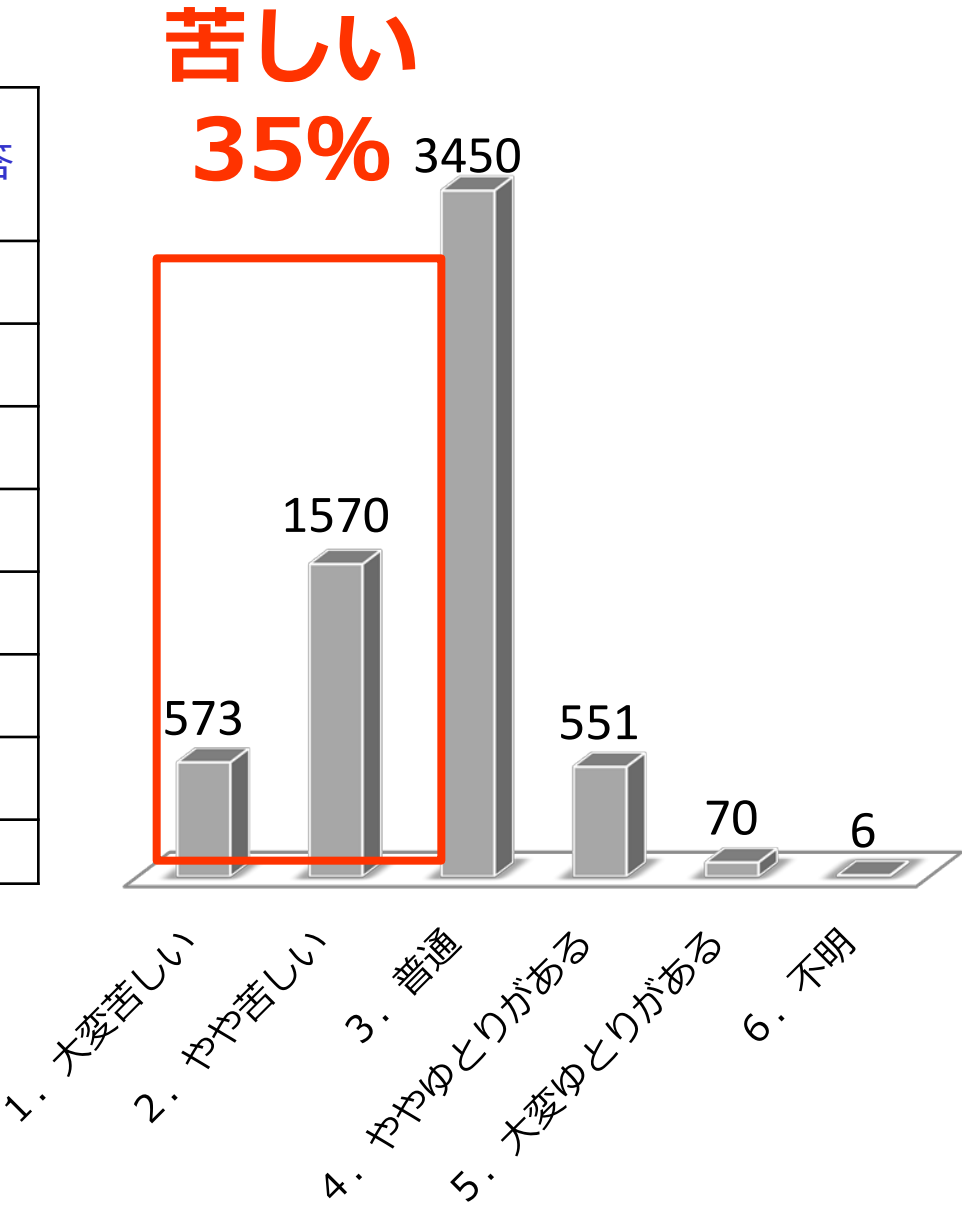


B型慢性肝炎 (N=966)



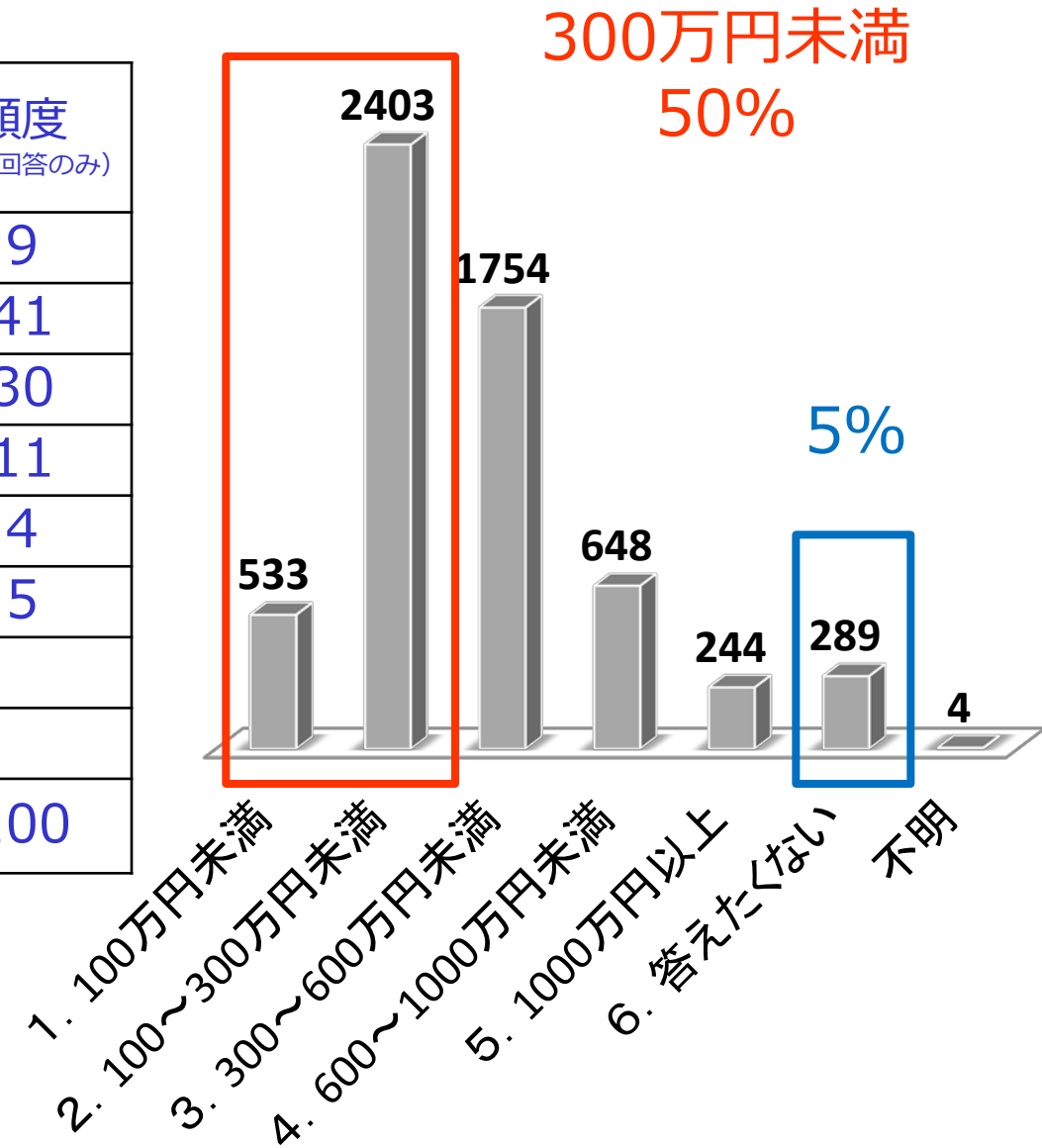
現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じていますか

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答 のみ)
1. 大変苦しい	573	9.1	9
2. やや苦しい	1570	24.8	25
3. 普通	3450	54.5	56
4. ややゆとりがある	551	8.7	9
5. 大変ゆとりがある	70	1.1	1
不明	6	0.1	
無回答	111	1.8	
合計	6331	100.0	100



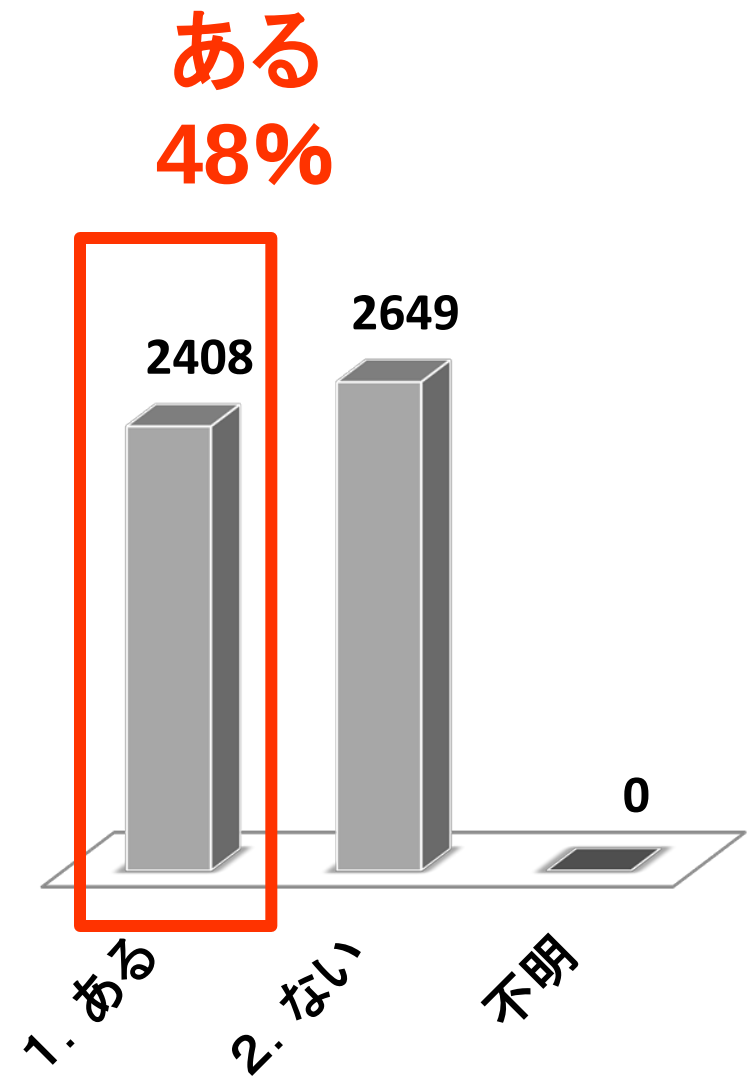
あなたの世帯の平成23年（平成23年1月1日～12月31日）の 所得額はどのくらいでしたか

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 100万円未満	533	8.4	9
2. 100～300万円未満	2403	38.0	41
3. 300～600万円未満	1754	27.7	30
4. 600～1000万円未満	648	10.2	11
5. 1000万円以上	244	3.9	4
6. 答えたくない	289	4.6	5
不明	4	0.1	
無回答	456	7.2	
合計	6331	100.0	100



日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか

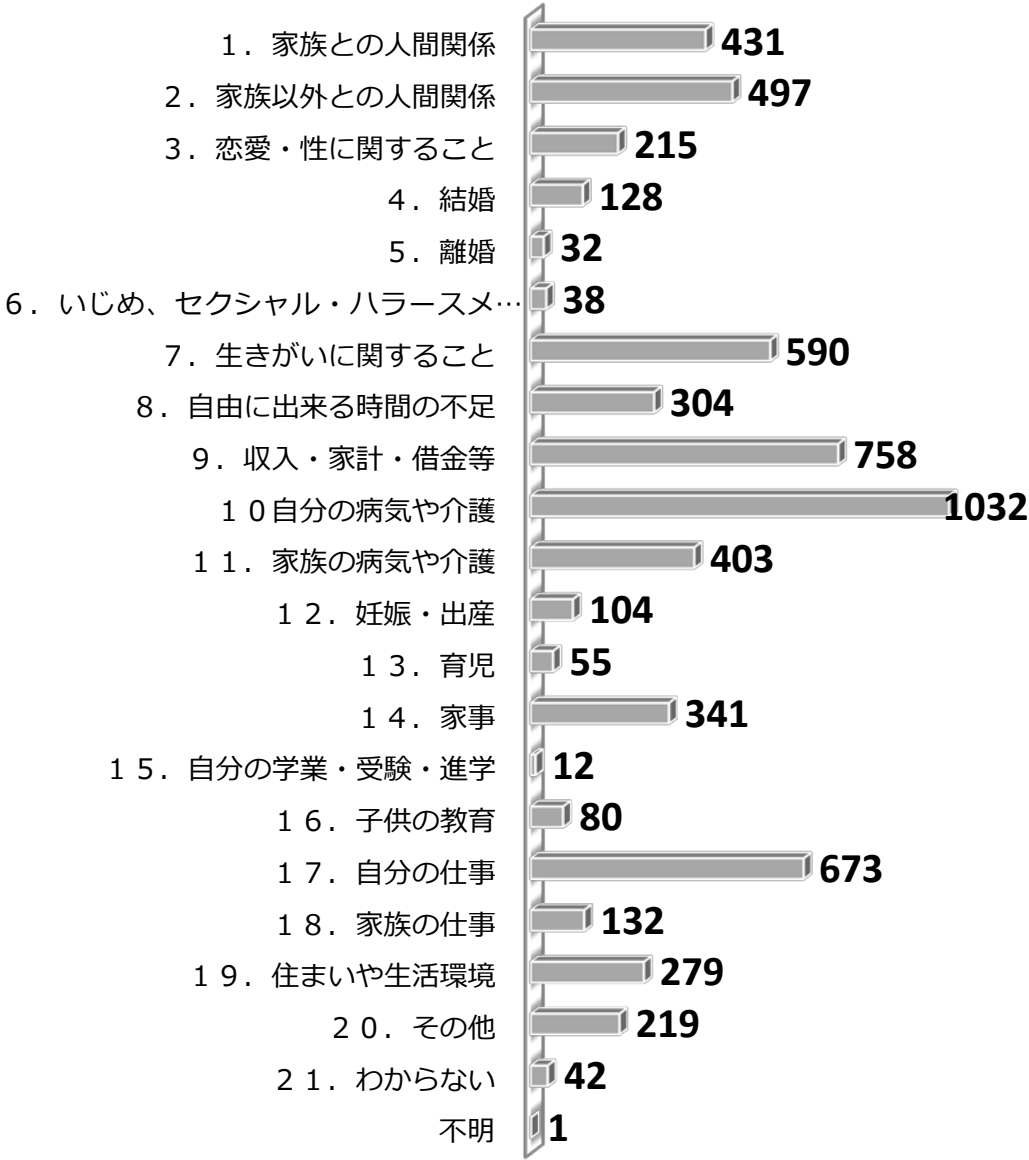
選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. ある	2408	38.0	48
2. ない	2649	41.8	52
不明	0	0.0	
無回答	1274	20.1	
合計	6331	100.0	100



悩みやストレスの原因について、下表であてはまる番号すべてに○をつけてください。また、
その中で最も気になる原因の番号を表下の番号記入欄に記入してください

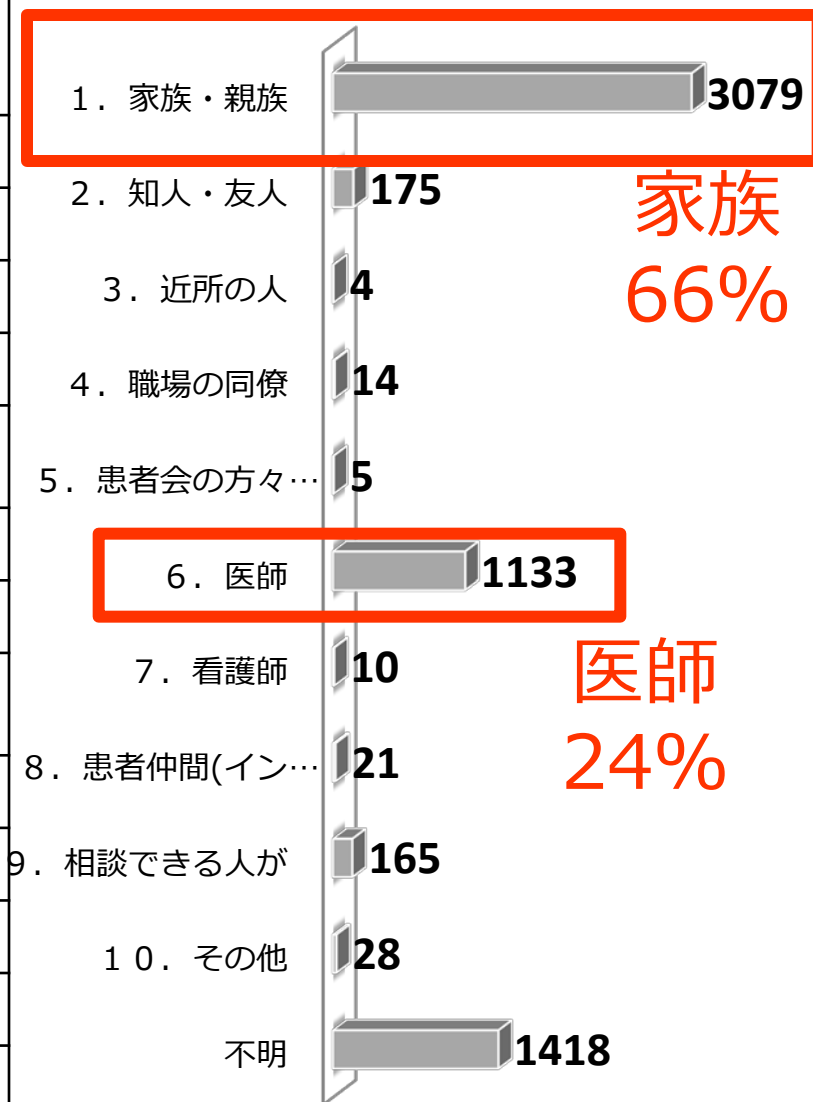
選択項目	回答数
1. 家族との人間関係	431
2. 家族以外との人間関係	497
3. 恋愛・性に関すること	215
4. 結婚	128
5. 離婚	32
6. いじめ、セクシャル・ハラスメント	38
7. 生きがいに関すること	590
8. 自由に出来る時間の不足	304
9. 収入・家計・借金等	758
10. 自分の病気や介護	1032
11. 家族の病気や介護	403
12. 妊娠・出産	104
13. 育児	55
14. 家事	341
15. 自分の学業・受験・進学	12
16. 子供の教育	80
17. 自分の仕事	673
18. 家族の仕事	132
19. 住まいや生活環境	279
20. その他	219
21. わからない	42
不明	1
無回答	206
合計	6572

①自分の病気
②収入、家計
③仕事



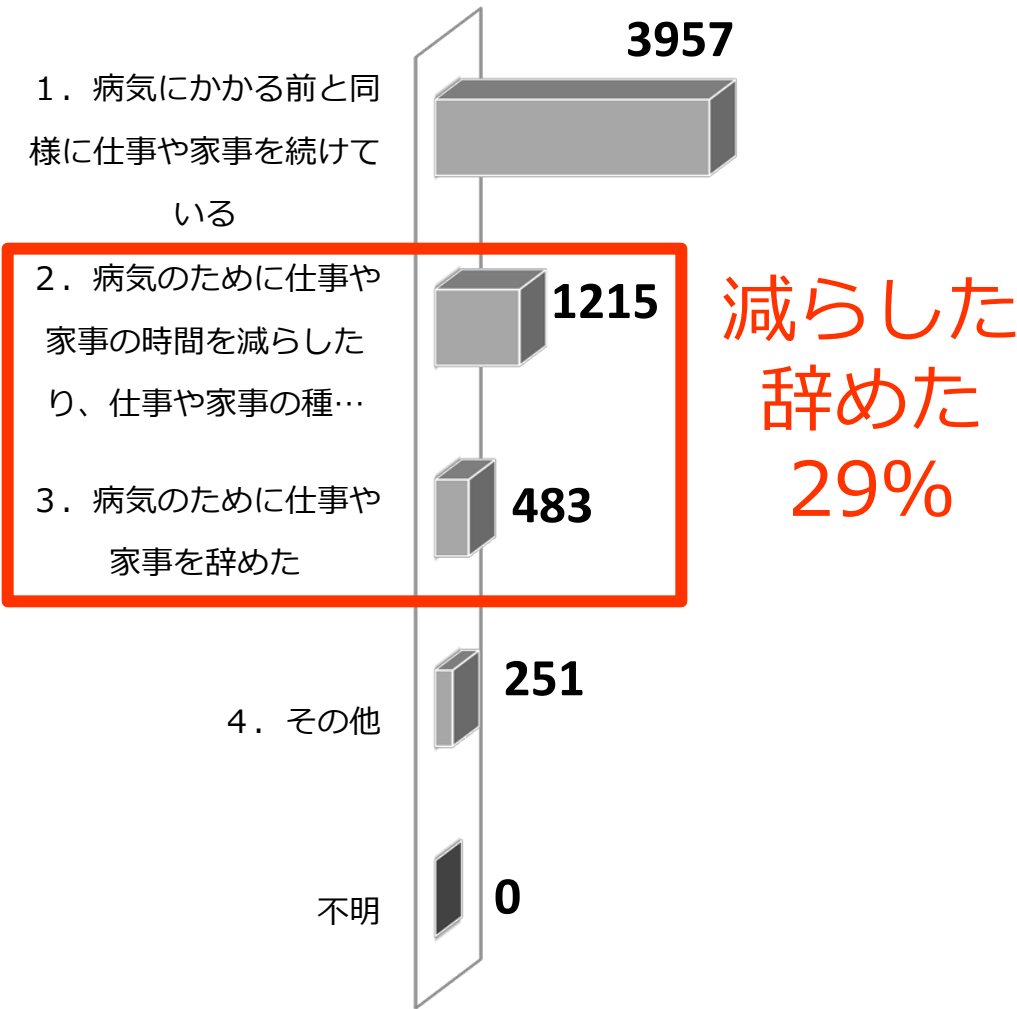
病気のことで、あなたが最も気軽に相談できる方はどなたですか (重複分を不明回答とした場合)

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 家族・親族	3079	48.6	66
2. 知人・友人	175	2.8	4
3. 近所の人	4	0.1	0.1
4. 職場の同僚	14	0.2	0.3
5. 患者会の方々 (肝臓友の会など)	5	0.1	0.1
6. 医師	1133	17.9	24
7. 看護師	10	0.2	0.2
8. 患者仲間 (インターネットも含む)	21	0.3	0.5
9. 相談できる人が	165	2.6	4
10. その他	28	0.4	0.6
不明	1418	22.4	
無回答	279	4.4	
合計	6331	100.0	100



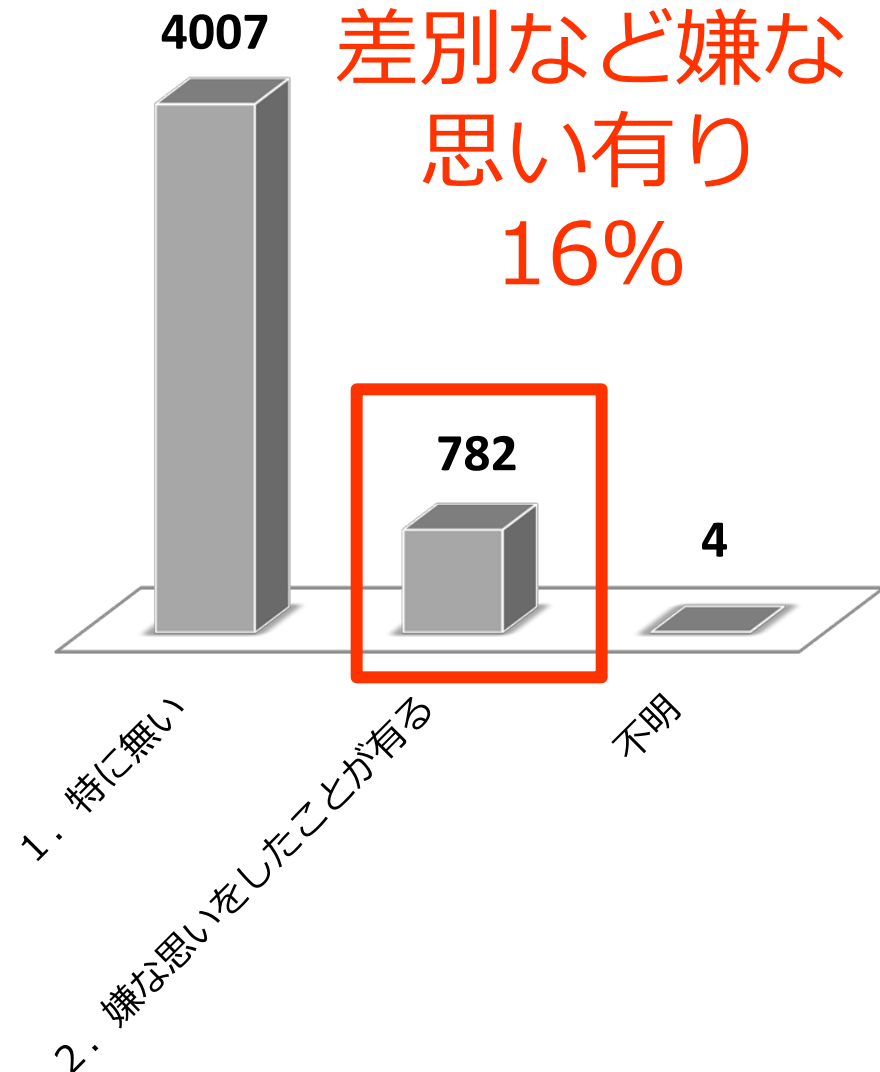
病気が、仕事や家事に与えた影響の度合いについてお聞かせ下さい

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答のみ)
1. 病気にかかる前と同様に仕事や家事を続けている	3957	62.5	67
2. 病気のために仕事や家事の時間を減らしたり、仕事や家事の種類、内容を変更したりした。	1215	19.2	21
3. 病気のために仕事や家事を辞めた	483	7.6	8
4. その他	251	4.0	4
不明	0	0.0	
無回答	425	6.7	
合計	6331	100.0	100



肝炎に感染していることで、差別を受けるなど
嫌な思いをしたことがありますか

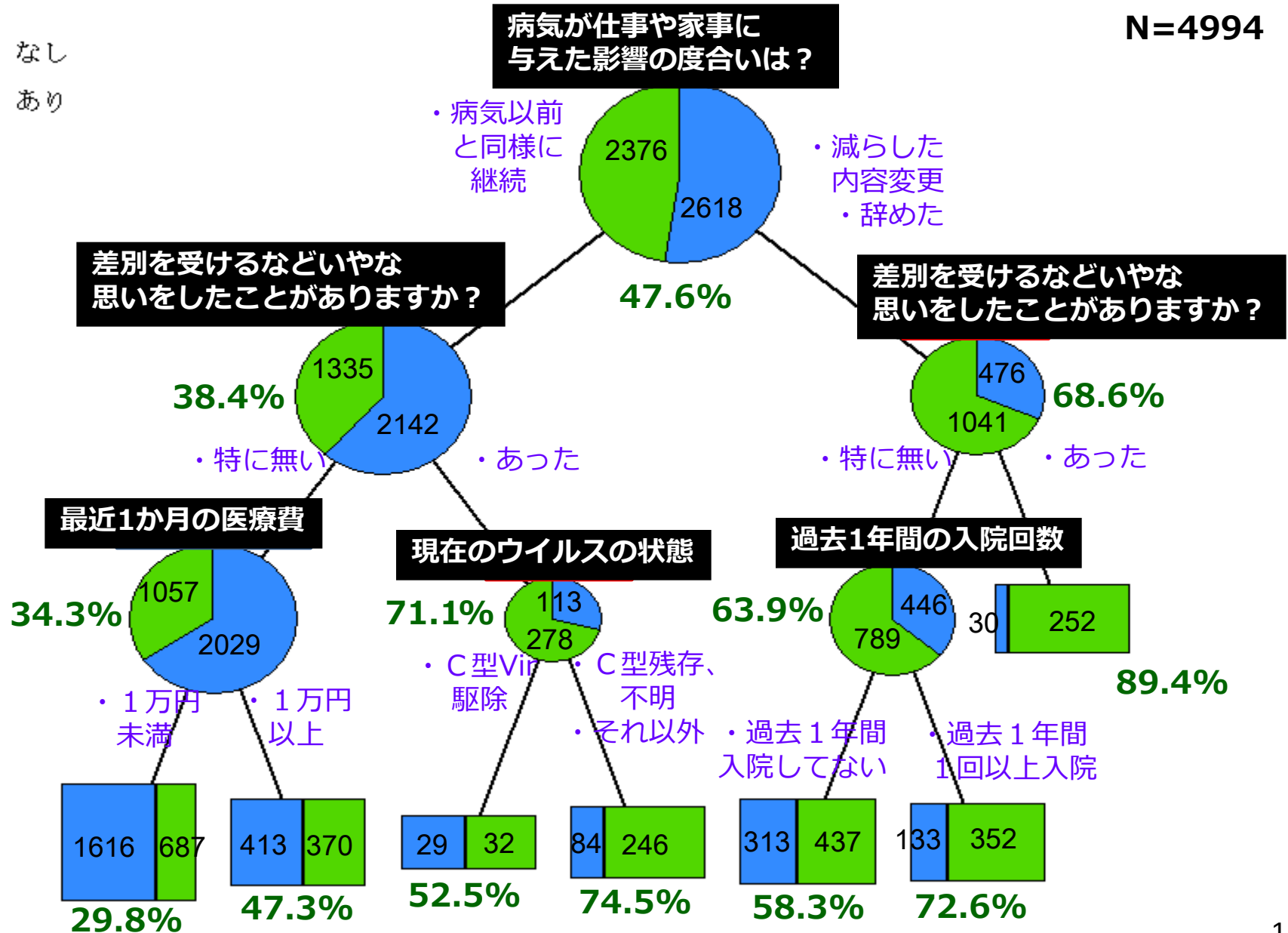
選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答 のみ)
1. 特に無い	4007	78.9	84
2. 嫌な思いをした ことが有る	782	15.4	16
不明	4	0.1	
無回答	286	5.6	
合計	5079	100.0	100



日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

■ なし
■ あり

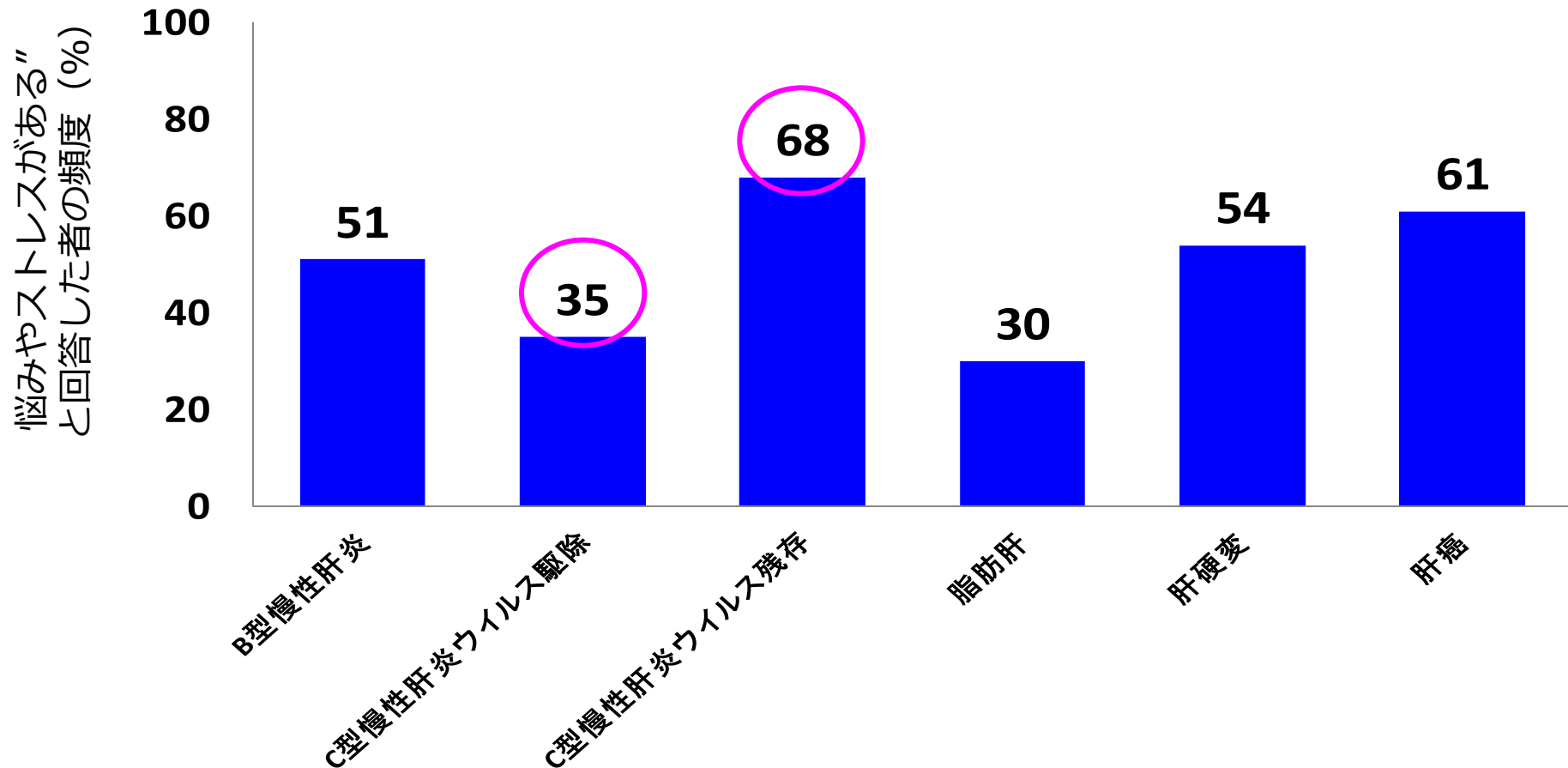
N=4994



悩みやストレスに関する、年代別、病態別の患者アンケート調査結果

F-11 日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

“悩みやストレスがある” と回答した者の頻度 (%)、50歳代の患者対象



C型慢性肝炎患者ではウイルスが駆除されると
悩みやストレスの頻度は半減する? (50歳代)

肝疾患患者さんの悩み

無し



有り



仕事、家事を減らした
辞めさせられた-29%

差別を受けた経験-16%

肝臓病患者の悩み

長崎医療センター八橋 弘

若くて職業を持っておられる患者さんの悩みとは、

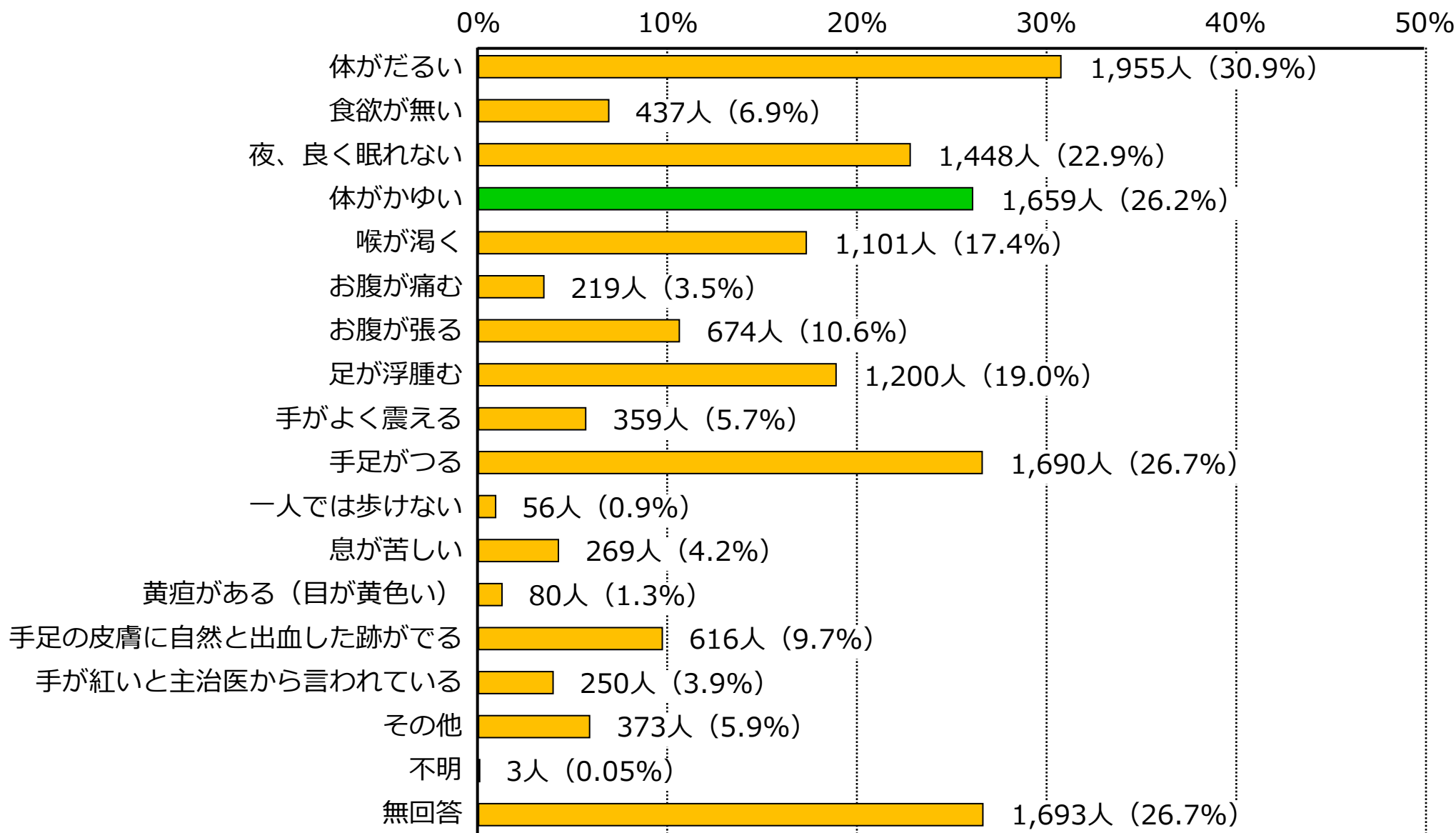
ある程度収入はあるものの、治療と仕事、家庭生活との両立の問題、治療に専念できる時間が確保できないこと、社会からの偏見、結婚、恋愛に関する悩みが多い。

60歳以上の年金暮らしの患者さんの悩みとは、

時間はあるものの年金、貯金を崩しながら治療費をなんとか確保されていること、また高齢化し、病状が進行していること、核家族化の影響で身近に介護者がいないこと、通院への交通手段の確保などの悩みが多い。

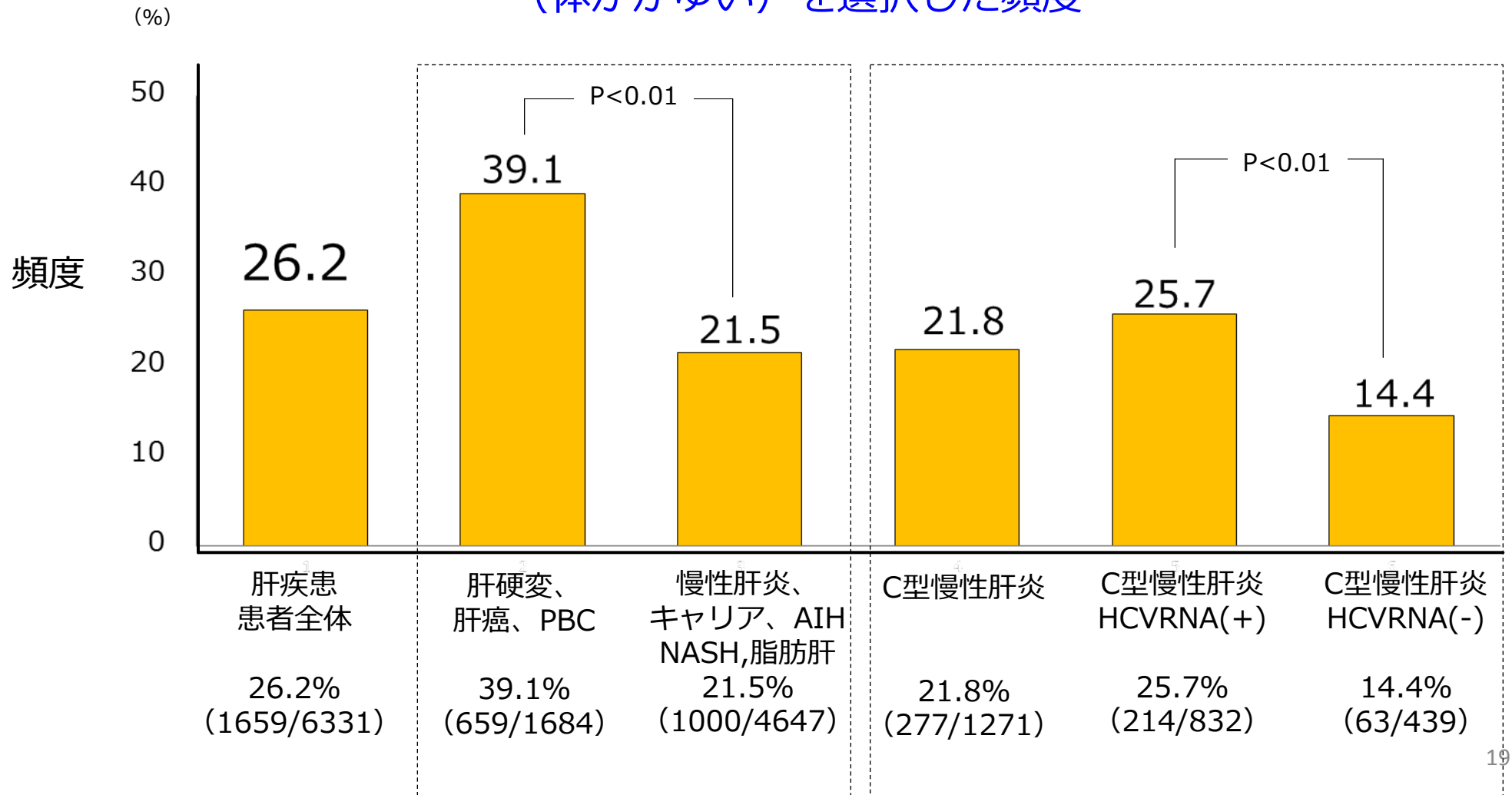
患者の年齢層（C型は高齢者、B型は若年者）、病期の進行度（慢性肝炎、肝硬変、肝癌）収入の状況によって、患者が抱え込んでいる悩みは異なることから、個々の患者ごとに、これらの患者の背景因子を十分、考慮した上で医療従事者として対処しなければならない。

肝疾患患者に対するアンケート調査結果、自覚症状の出現頻度 N = 6331



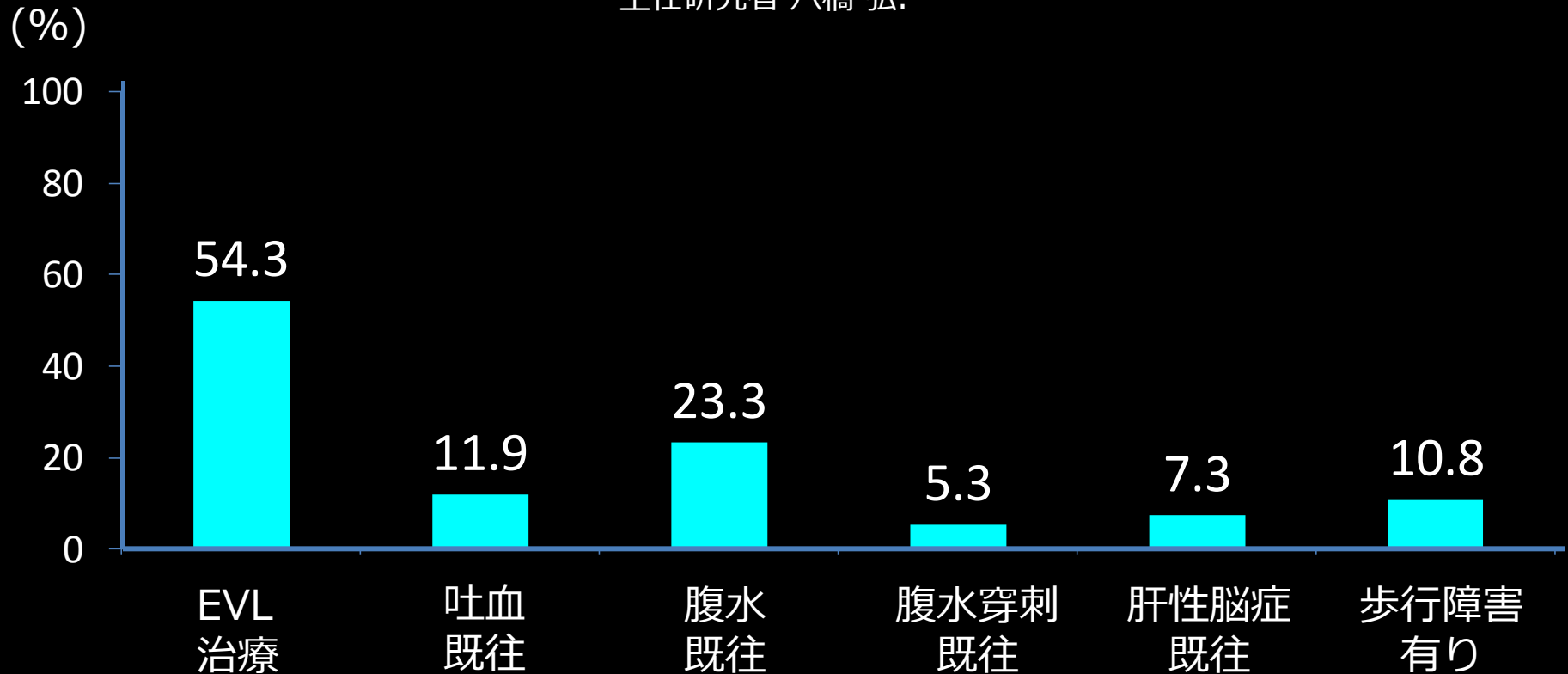
肝疾患患者に対するアンケート調査結果、自覚症状の出現頻度 N = 6331

今の体の状態について○をつけてください
(体がかゆい) を選択した頻度



肝硬変患者(肝癌を除く)の各種合併症の頻度 (N=1043)

厚生労働省 難病がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（肝炎関係研究分野）.
【病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる.
相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究】班
主任研究者 八橋 弘.



2015年9月29日 厚生労働省 肝臓機能障害の認定基準に関する検討会報告書

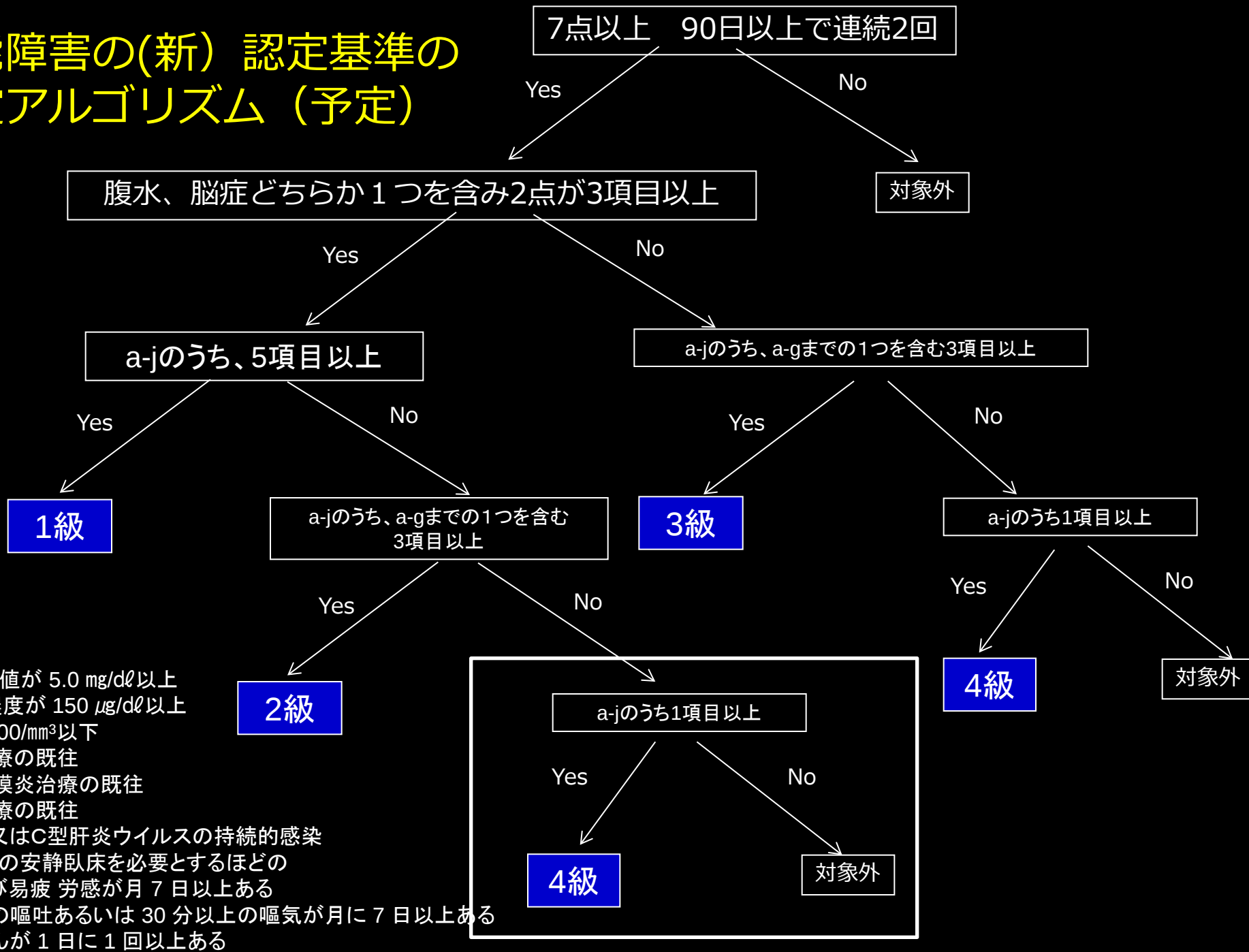
肝臓機能障害の認定基準に関する検討会 構成員名簿

坂井田 功	山口大学大学院医学系研究科教授
高見 裕子	国立病院機構九州医療センター消化器センター(肝胆膵外科)科長
田中 純子	広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授
中村 耕三	国立障害者リハビリテーションセンター総長
持田 智	埼玉医科大学 消化器内科・肝臓内科教授
八橋 弘	国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター長

肝臓機能障害の認定基準に関する見直し案（新旧）

改正（案）	現行
ア 等級表 1 級に該当する障害は、次のいずれにも該当するものをいう。 （ア） Child-Pugh 分類の合計点数が <u>7</u> 点以上であって、<u>肝性脳症、腹水、血清アルブミン値、プロトロンビン時間、血清総ビリルビン値の項目のうち肝性脳症又は腹水の項目を含む 3 項目以上が 2 点以上</u>の状態が、90 日以上の間隔をおいた検査において連続して 2 回以上続くもの。	ア 等級表 1 級に該当する障害は、次のいずれにも該当するものをいう。 （ア） Child-Pugh 分類の合計点数が <u>10</u> 点以上であって、血清アルブミン値、プロトロンビン時間、血清総ビリルビン値の項目のうち <u>1</u> 項目以上が <u>3</u> 点の状態が、90 日以上の間隔をおいた検査において連続して 2 回以上続くもの。

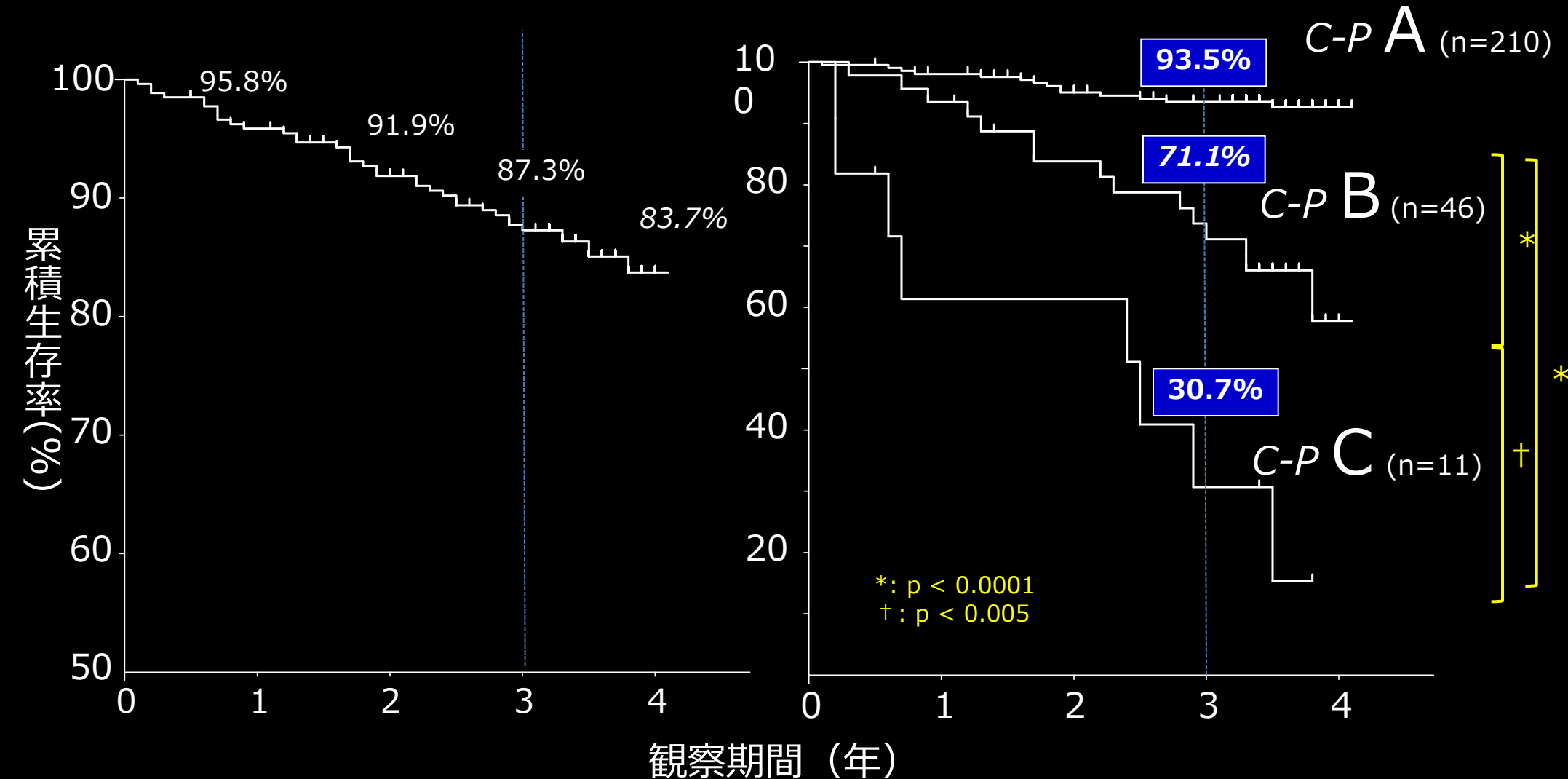
肝臓機能障害の(新) 認定基準の 等級決定アルゴリズム (予定)



長崎医療センター、肝硬変患者の累積生存率

全体 (N=267)

C-P分類別



様々な健康状態の効用値

健康状態	効用値 (EQ5D3L)	報告年	報告者
完璧な健康	1.00		
脳外傷退院時	0.8	2004	岡本隆嗣
透析	0.754	2014	A Katayama
[視力0.1	0.66	※測定方法が異なるため参考値 Brown MM 2009日本眼科医会	
脳外傷入院時	0.63	2004	岡本隆嗣
脊髄損傷退院時	0.62	2004	岡本隆嗣
在宅脳卒中	0.57	2003	黒田晶子
頸椎損傷退院時	0.47	2008	横山修
脊髄損傷入院時	0.42	2004	岡本隆嗣
頸椎損傷入院時	0.32	2008	横山修
[失明	0.26	※測定方法が異なるため参考値 2001 Brown MM	
死	0.00		

新潟医療福祉大学,医療経済QOL研究センター
QOLデータベースより引用
<http://cheqol.com/database/index.php>

非代償性肝硬変患者の効用値

我が国における患者調査等より得られた効用値
(EQ5D5L)

文献調査から得られた効用値

B型肝炎非代償性肝硬変 0.722
C型肝炎非代償性肝硬変 0.671
非代償性肝硬変 0.64

腹水有り 0.56
肝性脳症有り 0.47

厚生労働科学研究費補助金難病、がん等の疾患分野の医療の実現化研究事業
(肝炎関係研究分野) ウイルス性肝疾患に係る各種対策の医療経済評価に関する研究,平成23-25年度 総合研究報告書、
研究代表者 平尾智広、平成26(2014)年3月

本日の目次

1.病態別の患者の実態把握のための調査
および肝炎患者の病態に即した相談に対
応できる相談員育成のための研修プログ
ラム策定に関する研究 2011-2013年

2.肝疾患患者を対象とした相談支援シ
ステムの構築、運用、評価に関する研
究 2014-2016年

3.相談内容から研究テーマを模索する

研究課題：肝疾患患者を対象とした相談支援システムの構築、運用、評価に関する研究

課題番号：H26-肝政-指定-004 予定期間：H26年度からH28年度まで 研究代表者：八橋 弘

所属研究機関・所属部局：独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター・臨床研究センター 職名：臨床研究センター長

研究の背景

肝炎対策基本法には、国及び地方公共団体は、肝炎医療に関する情報の収集及び提供を行う体制を整備するために必要な施策を講ずるとともに、**肝炎患者等、その家族及びこれらの者の関係者に対する相談支援等を推進するために必要な施策を講ずるものとする、**と明記されている。また、肝炎対策の推進に関する基本的な指針の第1の（6）にも、**肝炎患者等及びその家族の等に対する相談支援や情報提供の充実、**と明記されている。

研究の目的

- 1)肝疾患患者を対象とした**相談支援システム（アプリケーション）**を構築し、肝疾患患者の悩みの軽減、QOLの向上を目指すことを目的とする。
- 2) **C型肝炎の新規抗ウイルス療法のデータの集積と解析**をおこなう。

肝疾患患者相談支援システムの概要



タブレット端末、デスク上PC端末で操作する



肝疾患患者相談支援システム

①相談内容の登録、参照、検索、編集



①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

②相談件数、動向の閲覧



②全国ベースで患者の相談事項・関心事の動向がタイムリーに分かる

③模範回答事例の検索



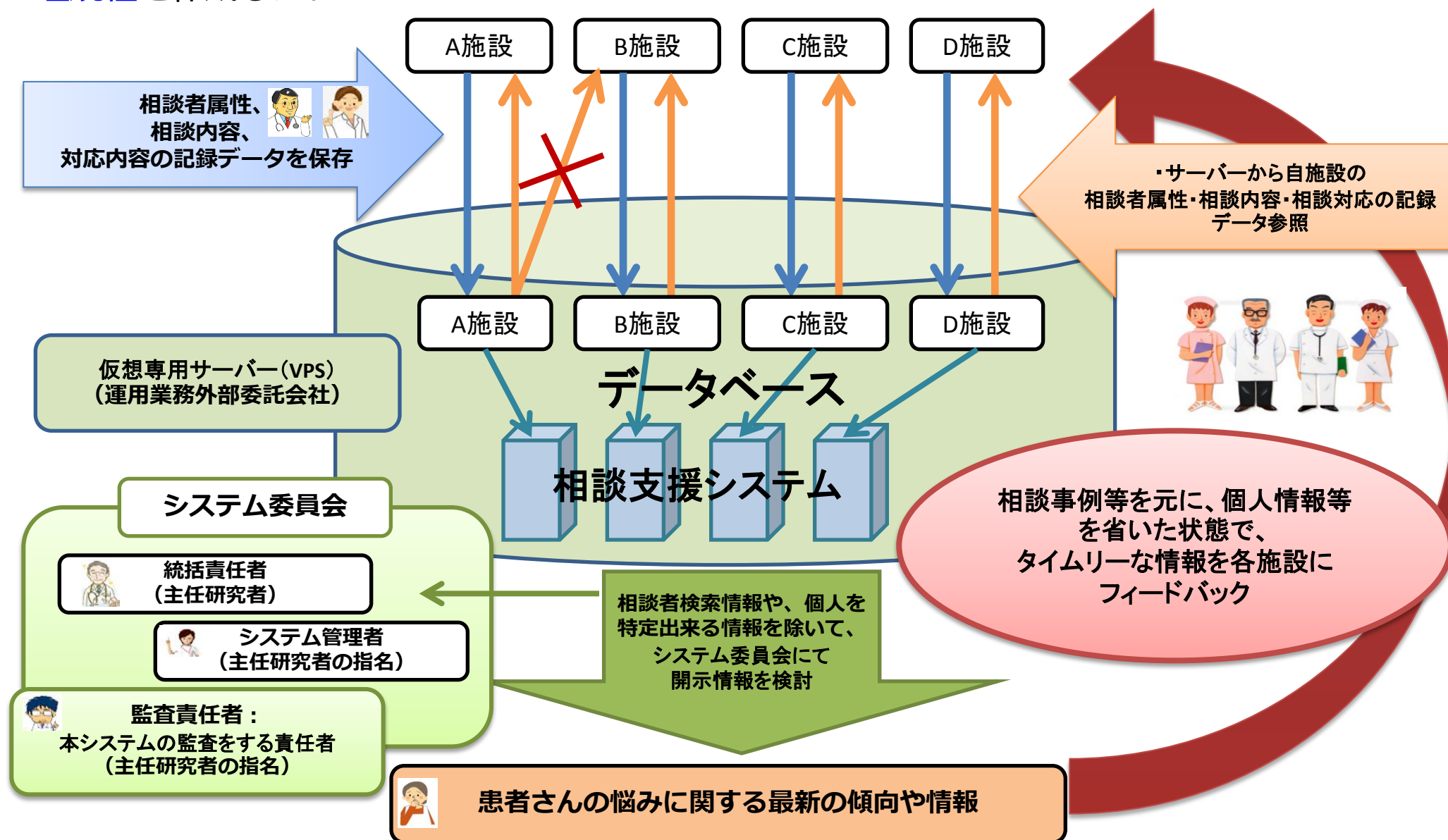
③相談対応の模範回答事例が参照できる

④患者さんの特徴把握



④個々の肝疾患患者の背景を推定できる

肝疾患患者相談支援システムの運用管理に関する事項を定め、患者個人情報を適正に扱うとともに、運用に関する正当性の確保を目的とした、**肝疾患患者相談支援システム運用管理規程**を作成した。





本日までの全国総登録件数:662件



ユーザー情報編集



相談内容の記録・検索・編集



相談件数・動向の閲覧



模範回答事例の検索



患者さんの特徴把握

リンク集

肝炎情報センター

ウイルス検査
(厚生労働省)医療費助成制度
(厚生労働省)肝臓専門医一覧
(日本肝臓学会)

各種ガイドライン

各施設外部HPリンク

講演記録資料

相談対応者の広場

システム管理者への伝言

肝疾患患者相談支援システムの概要



タブレット端末、デスク上PC端末で操作する



肝疾患患者相談支援システム

①相談内容の登録、参照、検索、編集



①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

②相談件数、動向の閲覧



②全国ベースで患者の相談事項・関心事の動向がタイムリーに分かる

③模範回答事例の検索



③相談対応の模範回答事例が参照できる

④患者さんの特徴把握



④個々の肝疾患患者の背景を推定できる

①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる



相談記録

肝疾患患者相談支援システム

相談内容の記録・検索・編集

相談記録

新規相談の記録

再相談の記録

相談記録の検索・編集

[前のページへ戻る](#)

①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

相談記録(新規)

模範回答事例 検索

2016 年 06 月 17 日

相談対応者:

記録番号:

相談回数:

記録の同意 ?	相談形態	相談対応者属性	
☐ あり ☐ なし	☐ 電話 ☐ 対面 ☐ その他メール	☐ 医師 ☐ 看護師 ☐ ソーシャルワーカー ☐ その他	
相談者 ?		相談者検索情報 ?	
☐ 本人 ☐ 家族・親族 ☐ 医師 ☐ 医師以外の医療従事者 ☐ その他		相談者検索情報	
年齢(年代) ?	性別 ?	都道府県 ?	相談者の連絡先 ?
未選択 ▼	☐ 男性 ☐ 女性	未選択 ▼	連絡先
肝炎ウイルス型		肝疾患の病態	
未選択 ▼		未選択 ▼	

①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

診断・治療・療養相談内容の分類

C型肝炎

B型肝炎

肝硬変、肝がん

脂肪肝・NASH、PBC、AIH、PSC、その他の肝疾患

☐ 診断・検査

☐ その他

HCV型

☐ 1型

☐ 2型

☐ その他

治療

種類

☐ IFNフリー

☐ BMS

☐ ギリアド

☐ アビィ

☐ その他

☐ IFNベース

☐ シメプレ

☐ バニプレ

☐ その他

☐ その他

☐ 副作用

☐ 耐性変異

☐ 再治療

☐ その他

①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

診断・治療・療養以外相談内容の分類

☐ 感染心配

☐ 差別・偏見

☐ 助成制度

☐ 医療保険

☐ 訴訟

☐ 医療費

☐ 就労・家事・仕事

☐ 収入・家計・生活費

☐ 健康食品

☐ 病院紹介

☐ 退院・転院

☐ 療養・介護

☐ 資料情報

☐ セカンドオピニオン

☐ その他

①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

具体的な相談内容

相談内容に対する助言・対応

患者さん満足度(感謝の言葉) ?

☐ あり ☐ なし

患者さんQOL ?

☐ 良い ☐ 悪い

下書き

登録

戻る

肝疾患患者相談支援システムの概要



タブレット端末、デスク上PC端末で操作する



肝疾患患者相談支援システム

①相談内容の登録、参照、検索、編集



①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

②相談件数、動向の閲覧



②全国ベースで患者の相談事項・関心事の動向がタイムリーに分かる

③模範回答事例の検索



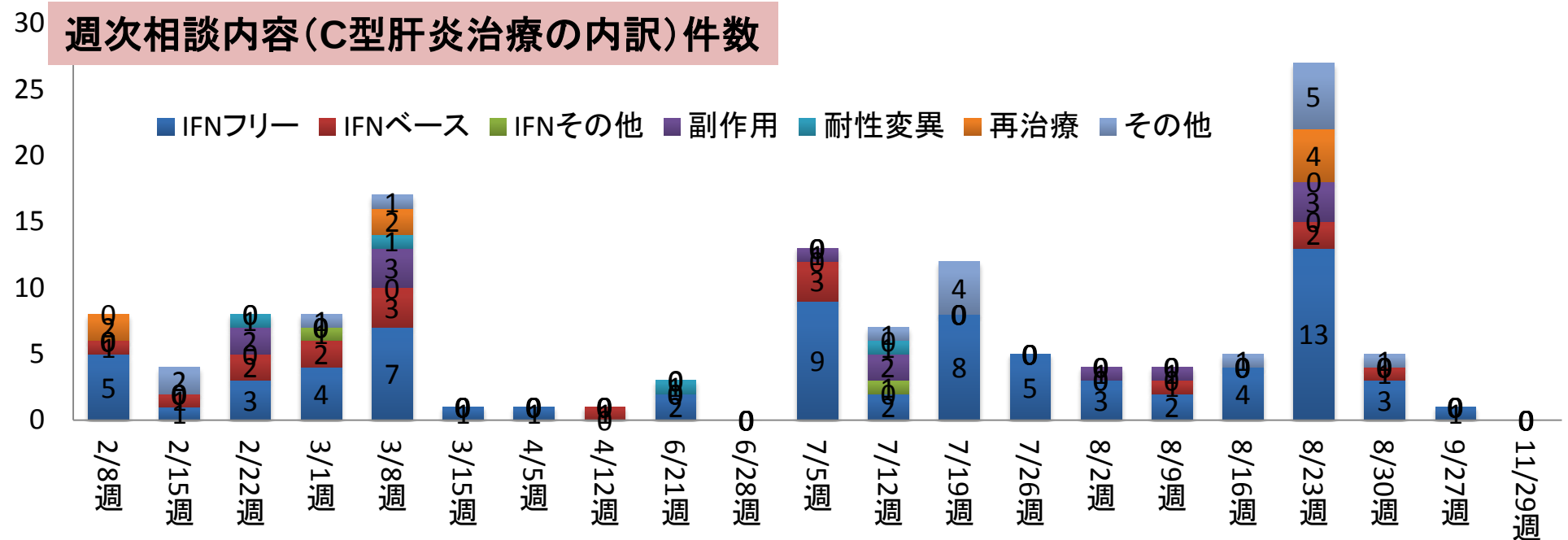
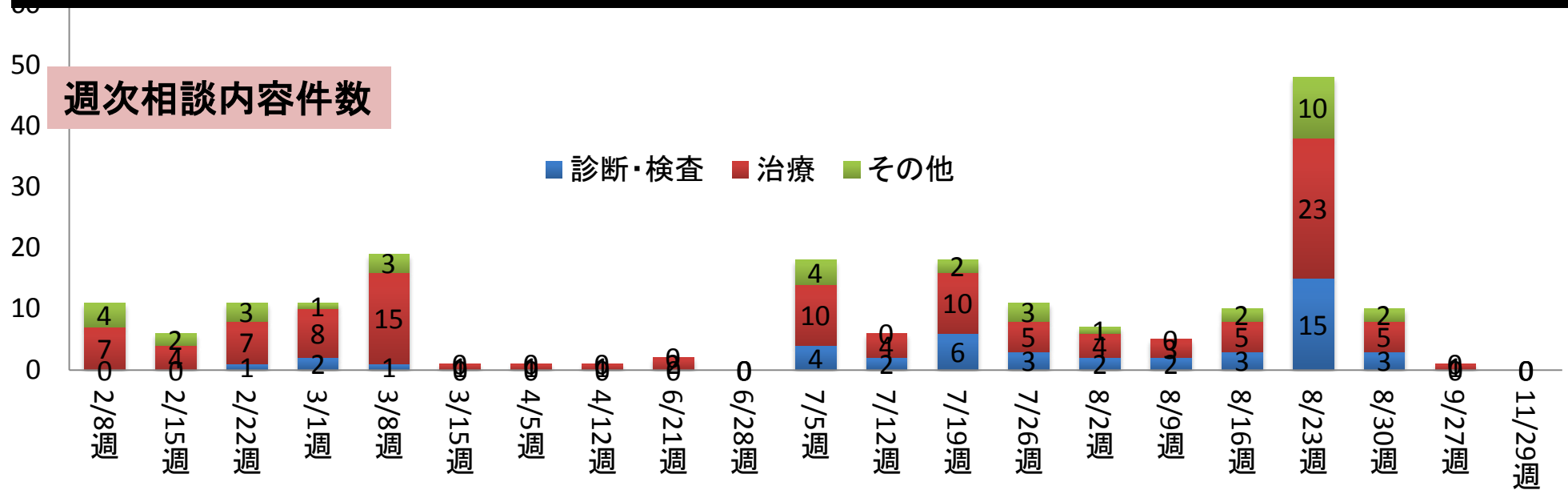
③相談対応の模範回答事例が参照できる

④患者さんの特徴把握



④個々の肝疾患患者の背景を推定できる

②全国ベースで患者の相談事項・関心事の動向がタイムリーに分かる



肝疾患患者相談支援システムの概要



タブレット端末、デスク上PC端末で操作する



肝疾患患者相談支援システム

①相談内容の登録、参照、検索、編集



①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

②相談件数、動向の閲覧



②全国ベースで患者の相談事項・関心事の動向がタイムリーに分かる

③模範回答事例の検索



③相談対応の模範回答事例が参照できる

④患者さんの特徴把握



④個々の肝疾患患者の背景を推定できる

③相談対応の模範回答事例が参照できる

「相談内容」と「回答例」	
肝炎ウイルス型 肝疾患の病態 診断・治療・療養 その他分類	
📞 相談内容	👤 回答例
C型 慢性肝炎/キャリア C型肝炎/治療/種類/IFNフリー/BMS C型肝炎/治療/種類/IFNフリー/ギリアド C型肝炎/治療/種類/IFNフリー/アビィ -	
📞 新しい飲み薬の2剤は服薬に条件がありますか？	👤 全ての薬には服用してはいけない人（禁忌）、注意しながら服用する人（要注意）などがあります。内服2剤で注意すべきはいくつかの薬と併用する場合、禁忌と要注意がありますので主治医ないし薬剤師の先生と相談が必要です。 (2015年1月 八橋)

③相談対応の模範回答事例が参照できる

ウイルス型	病態	具体的な相談内容	相談内容に対する助言・対応
B型	慢性肝炎/キャリア	バラクルード服用中は子供は作れないのでしょうか？	バラクルードを服用して妊娠した場合の安全性が確認できていませんが、バラクルードを服用している男性から出産した事例は多い様です。バラクルードよりもテノホビルの方が妊娠に対する安全性が高い事が示されており、テノホビルへの変更を検討すべきかと思います。
C型	肝がん	肝癌の診断を受けているが、BMSの経口2剤を自費でも構わないので投与してくれるところはありませんか？	肝癌と診断されても、現在再発していない状況なら経口2剤治療の適応があります。
C型	慢性肝炎/キャリア	ソブリアード治療があと3Wで、一旦マイナスになったが、その後1.3～2.1に戻ってしまった。IL28BはGG。これは耐性ができてしまったということですか？そうなるとBMS（NS3、NS5A）は効かない？	状況からはソブリアード耐性となった可能性があり、その場合にアスナ/ダクラ治療で治せるかデータはありません。但し、ハーボニーの場合にはソブリアード耐性でも治癒が期待出来ます。
C型	肝がん	ペグ・リバ72週無効。HCCができて、ラジオ波をしたけど、BMS経口剤を勧められた。新薬でくるが、90%以上の完治率でどの薬も大差はないから早く治療した方がいいと耐性の事やALTの上昇についての説明は全くなかった。	アスナ/ダクラの内服2剤では15～20%の方でウイルス変異の関係から治癒率が40%前後となります。また、10%の方で治療中肝障害の副作用が出現します。治療前にウイルス変異があるか否か測定するように学会ガイドラインでは推奨されています。
C型	肝がん	予防接種で感染した。国を訴えたいと言っている患者がいるが、Cも予防接種で訴訟できるか。	Cの予防接種は訴訟対象外です。血液製剤投与歴が証明された方が対象となります。

肝疾患患者相談支援システムの概要



タブレット端末、デスク上PC端末で操作する



肝疾患患者相談支援システム

①相談内容の登録、参照、検索、編集



①自施設の相談内容の登録、参照、検索、編集をすることができる

②相談件数、動向の閲覧



②全国ベースで患者の相談事項・関心事の動向がタイムリーに分かる

③模範回答事例の検索



③相談対応の模範回答事例が参照できる

④患者さんの特徴把握



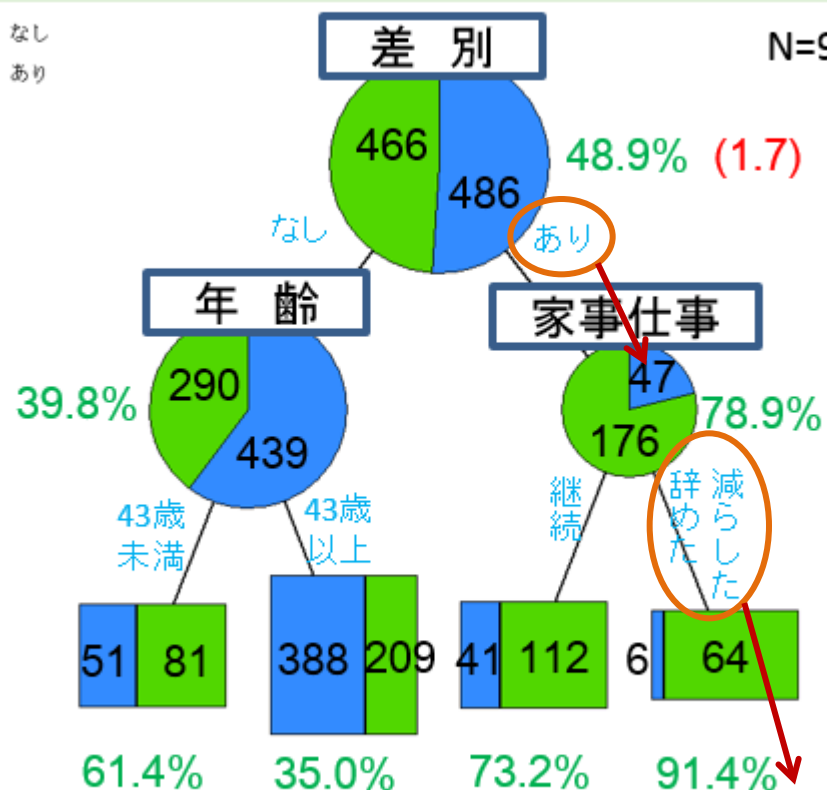
④個々の肝疾患患者の背景を推定できる

④個々の肝疾患患者の背景を推定できる

日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか。

■ なし
■ あり

N=952



差別を受けたことがあって、病気の為に仕事や家事を辞めた若しくは減らした
⇒ **リーフ4** に該当

リーフ1

リーフ2

リーフ3

リーフ4

性別：男性

型：B型

病態：キャリア

年齢：36～40歳

差別経験の有無	いやな思いをしたことがある
仕事・家事の状況	病気のために仕事や家事を辞めた

④個々の肝疾患患者の背景を推定できる

前ページで選択した検索条件が表示できる。

選択した検索条件はこちら▼

あなたが対応されている患者さんに類似した集団の方々が書いてくださった『悩みや希望』です。

リストの並びの順は、悩み有無→年齢→性別→病名の順です。

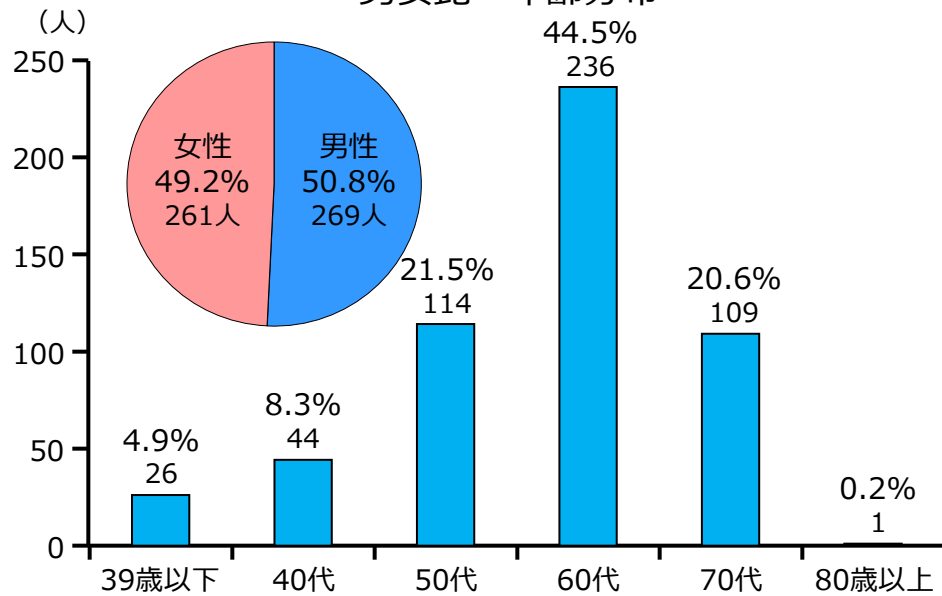
検索結果：59件

悩み・希望	カテゴリー
【B1321】 30代 男性・・・慢性肝炎。家事仕事は減辞、悩みあり、差別経験あり。家族内感染 子供の学資保険をかけてあげれない。	
【B1054】 30代 男性・・・慢性肝炎。家事仕事は減辞、悩みあり、差別経験あり。家族内感染 将来の子供に感染する可能性がゼロではないため、時に悩むことがある。肝炎を理由に職場で配置異動の経験がある。	
【B1407】 30代 男性・・・慢性肝炎。家事仕事は減辞、悩みあり、差別経験あり。家族内感染 付き合っている彼女の両親から、彼女に対して「うつらないように最後に入浴しろ」「トイレはコンビニで済ませて」「洗濯は別にして」と言われたことがある。	

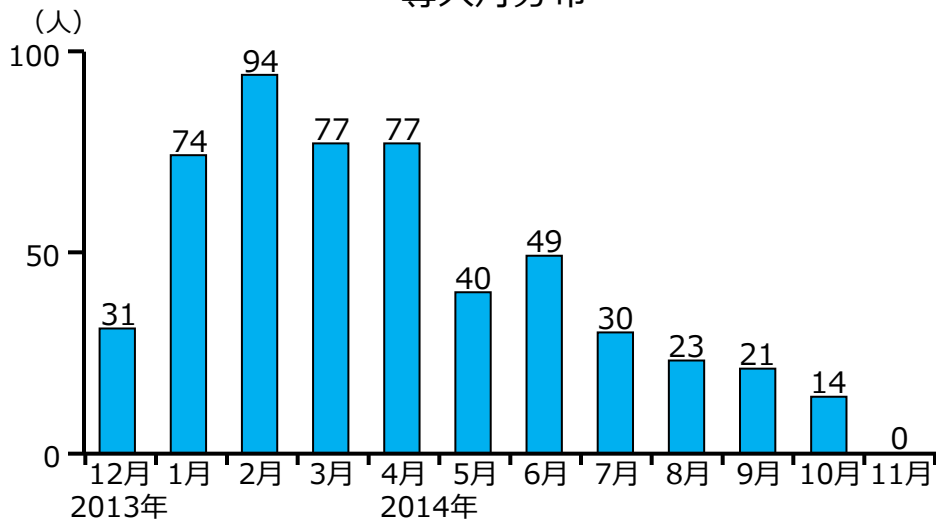
C型肝炎の新規抗ウイルス療法のデータの集積と解析 (1)

シメプレビル療法 (N=530) 2016年1月集計

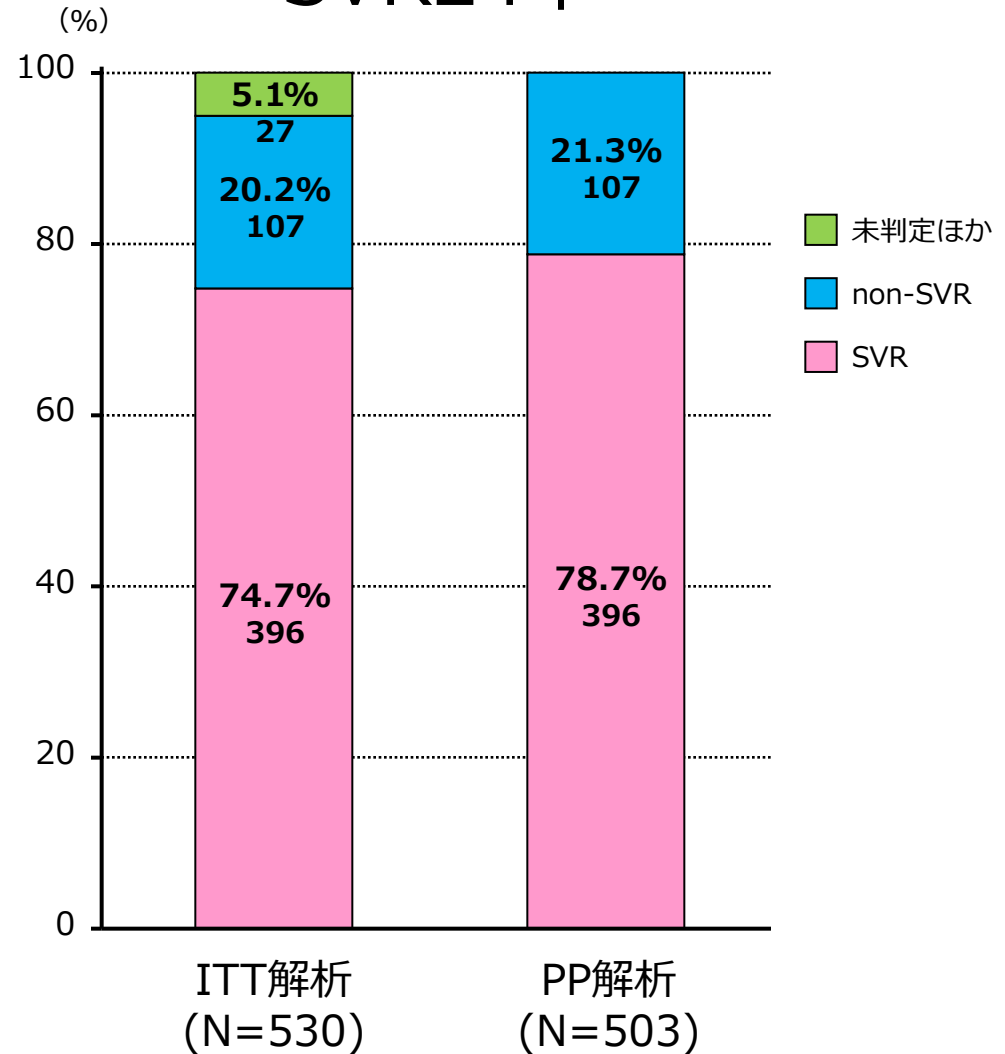
男女比・年齢分布



導入月分布

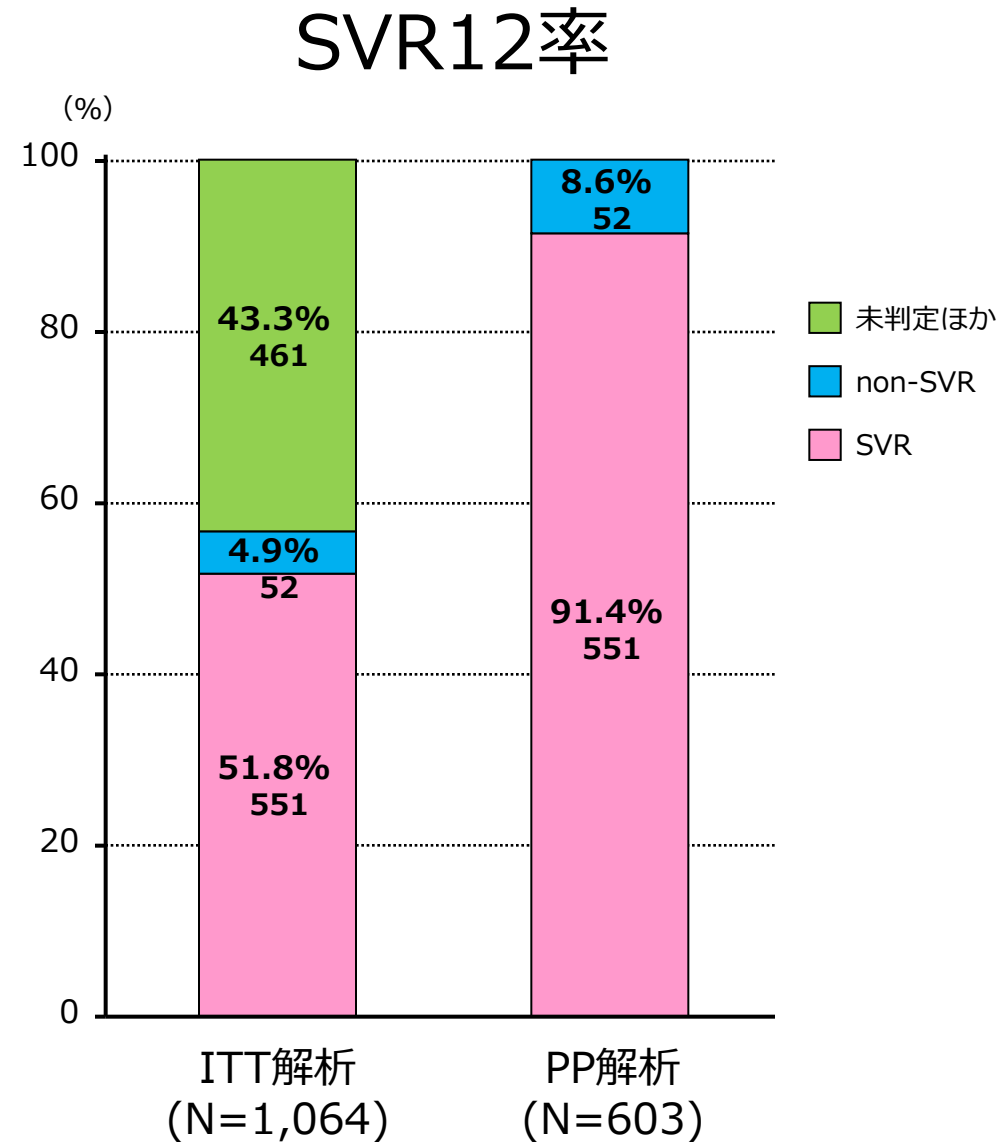
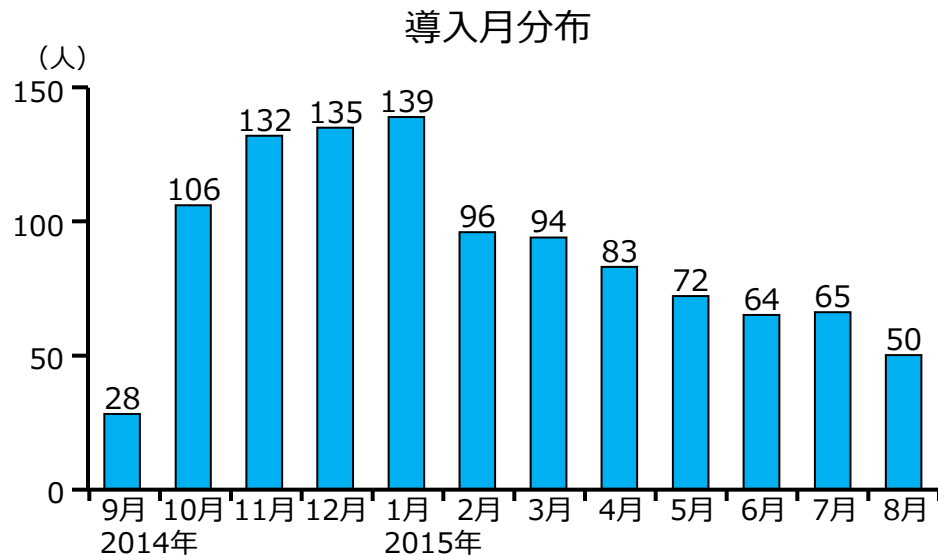
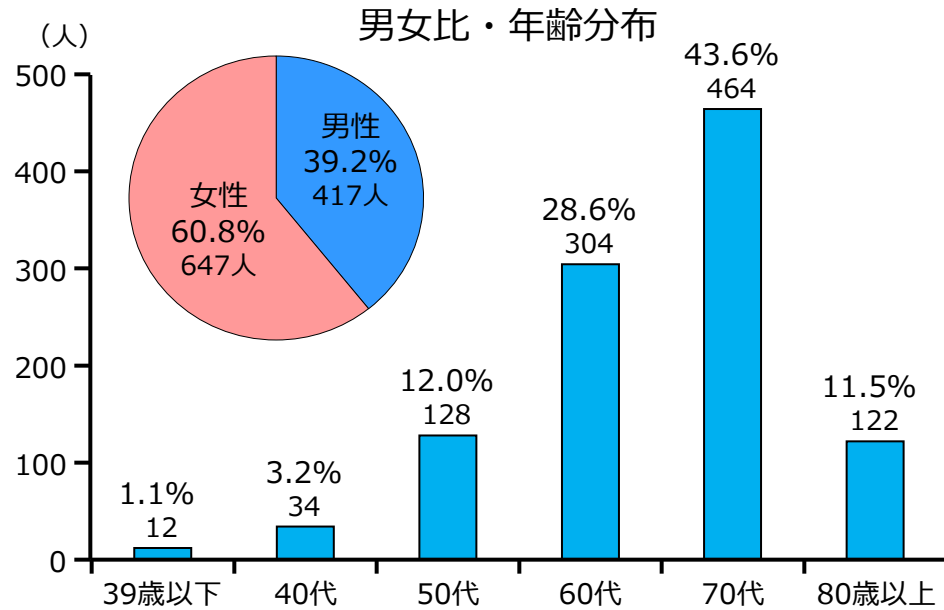


SVR24率



C型肝炎の新規抗ウイルス療法のデータの集積と解析 (2)

アスナプレビル/ダクラタスビル併用療法 (N=1,064) 2016年1月集計



Post SVR syndrome (八橋)

1.SVR後の肝発がん

R.Sasaki,K.Yamasaki,H.Yatsushashi et.al.PLOS ONE 2015

2.高LDL血症

Meissner EG et.al. Hepatology 2015;61:790-801

Townsend K et.al. AIDS RESEARCH and HUMAN RETROVIRUSES 2015

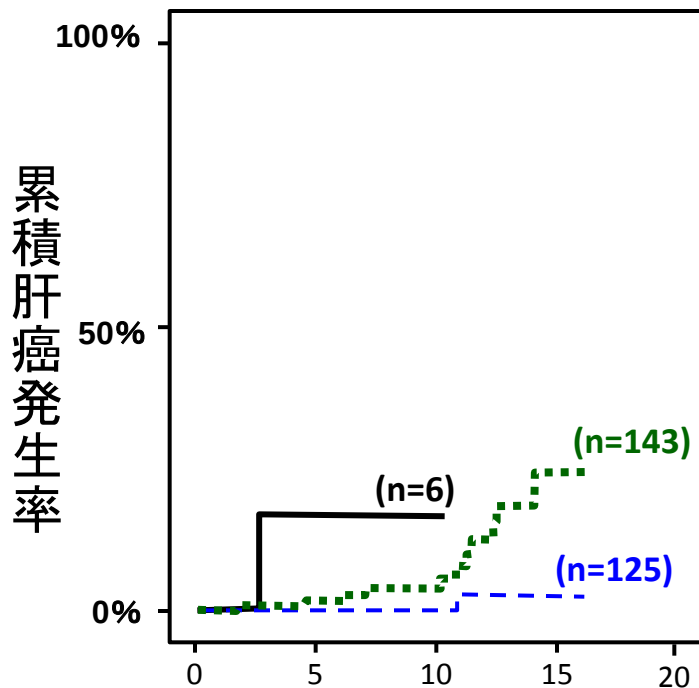
3.HBV再活性化

Collins JM, et al. Clin Infect Dis 2015; 61:1304–6

線維化進展度別のWFA⁺-M2BP値と累積肝癌発生率

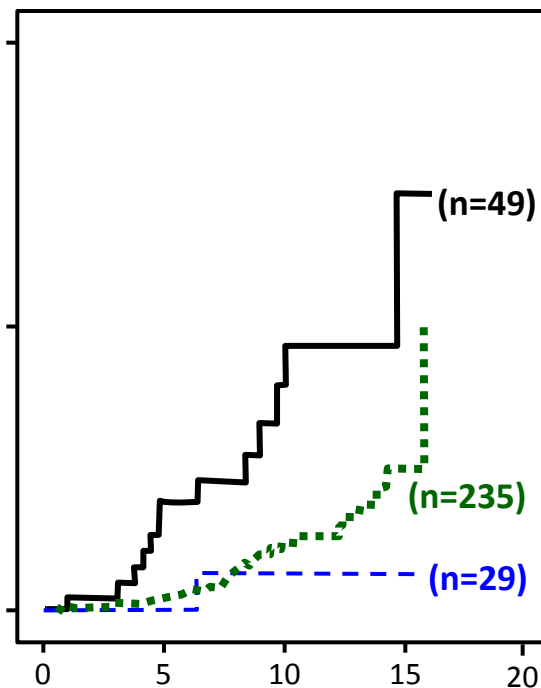
F0/1

(N=274)



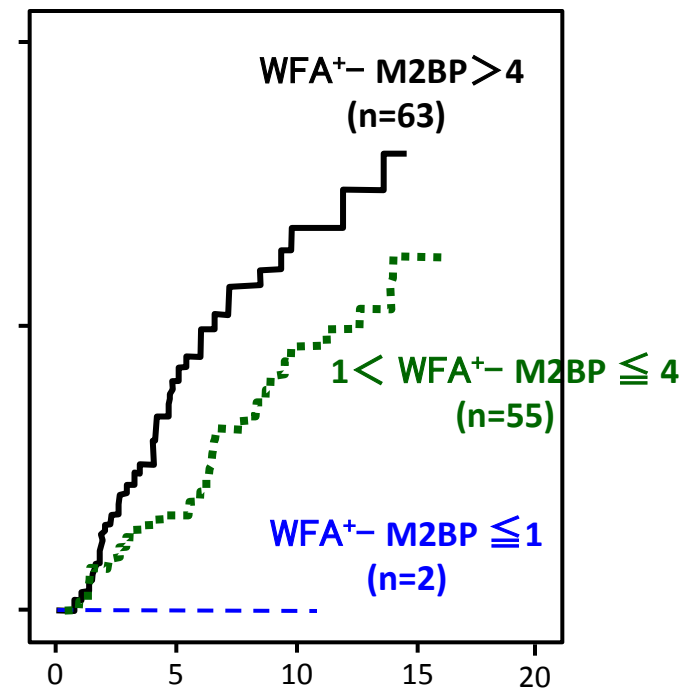
F2/3

(N=313)



F4

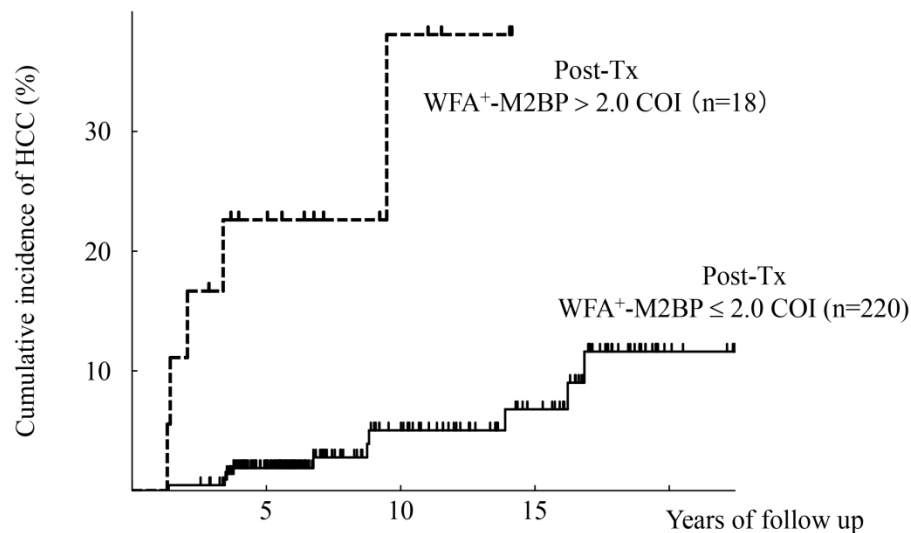
(N=120)



WFA⁺-M2BPは、肝癌発生リスクを予測する新しいバイオマーカーである

SVR24判定時のWFA⁺-M2BP値がSVR後の肝発癌を予測する

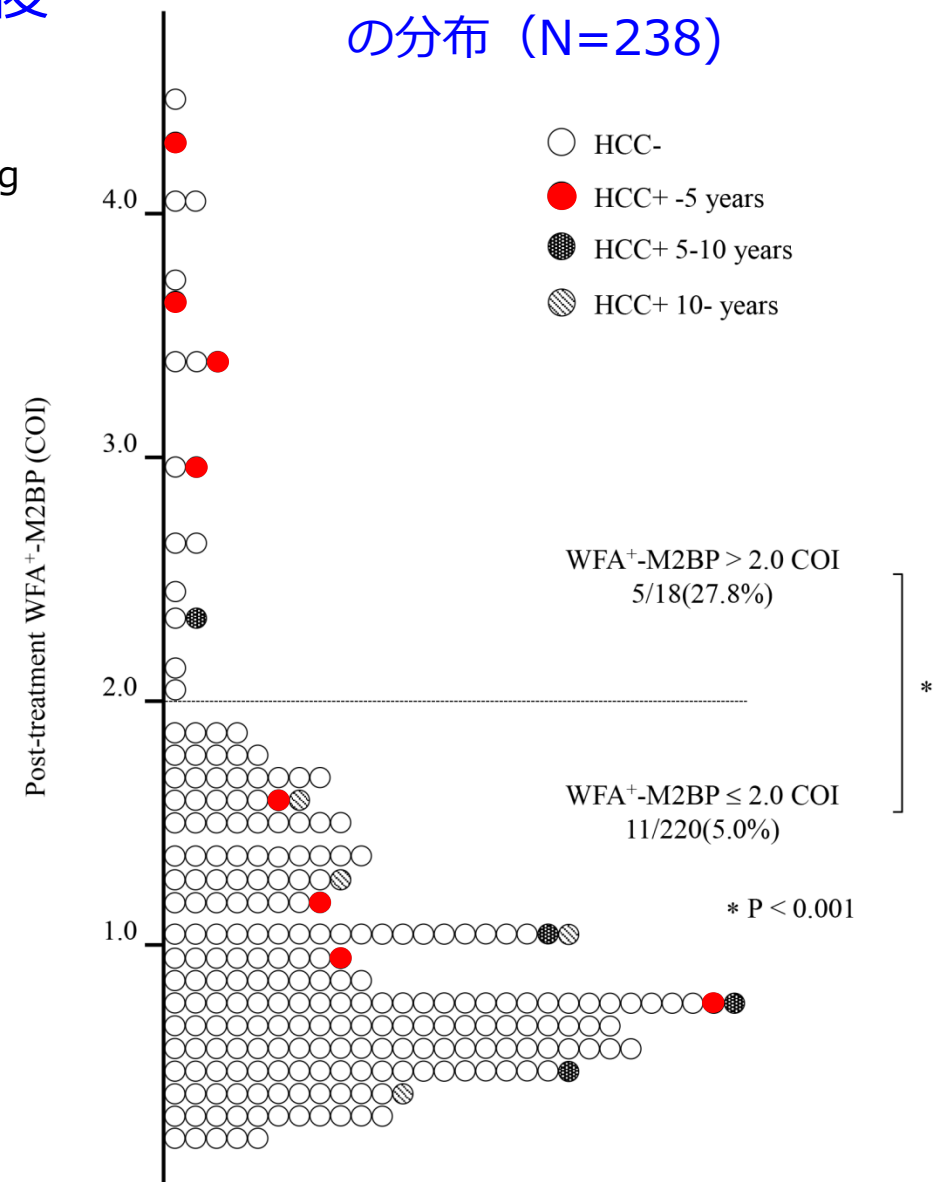
Serum Wisteria Floribunda Agglutinin-Positive Mac-2 Binding Protein Values Predict the Development of Hepatocellular Carcinoma among Patients with Chronic Hepatitis C after Sustained Virological Response.



Post-Tx WFA ⁺ -M2BP > 2.0 COI (n=18, patient at risk)	22.6% (11)	38.1% (4)
Post-Tx WFA ⁺ -M2BP ≤ 2.0 COI (n=220, patient at risk)	1.9% (168)	5.0% (77)

Figure 1.

SVR24判定時のWFA⁺-M2BP値の分布 (N=238)



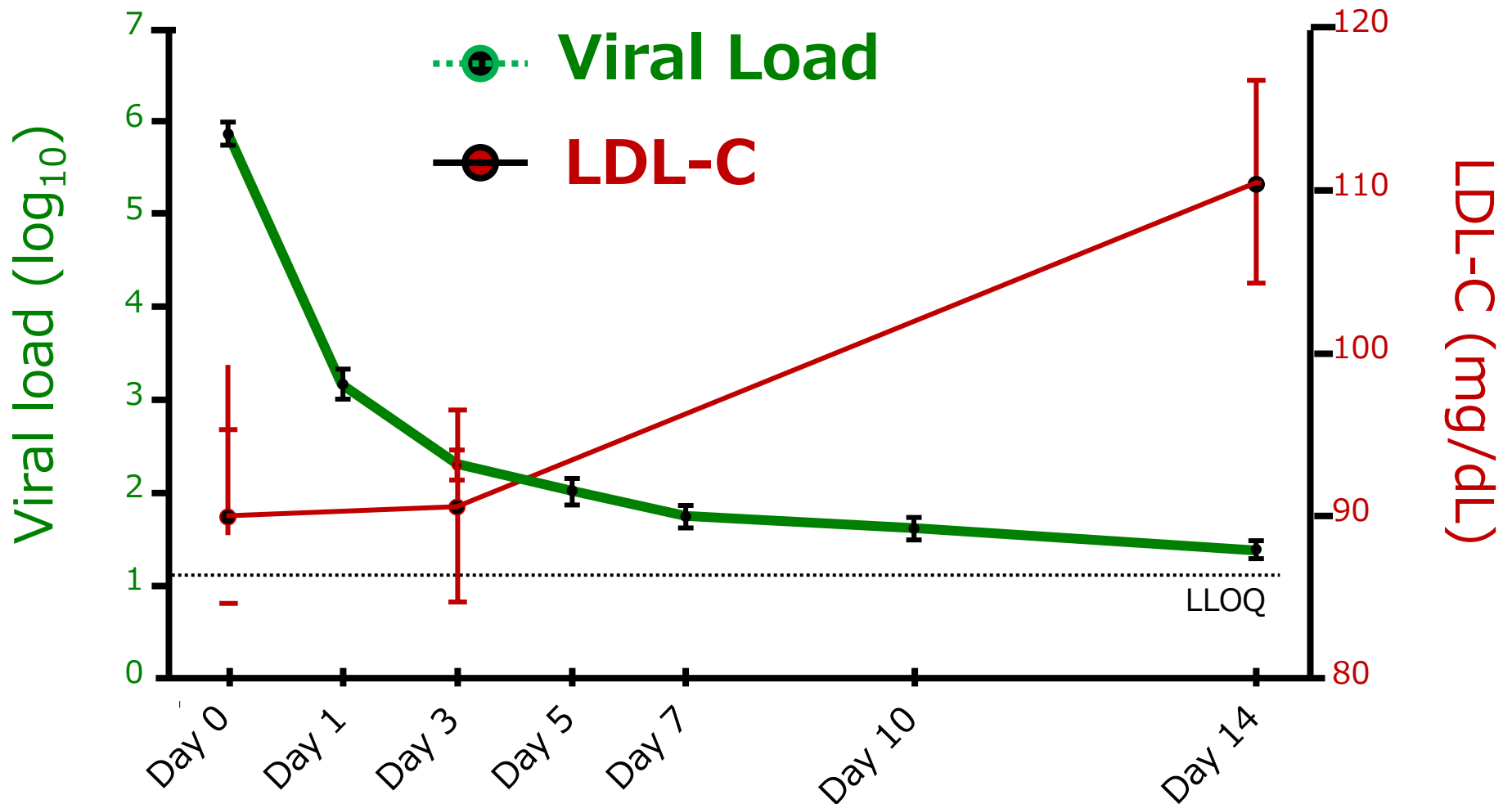
SVR24判定時のWFA⁺-M2BP値が2.0以上の例は高率に5年以内に肝発癌する

SOF/LDV治療開始4週目から高LDL血症(>140mg/dL)を呈した症例

経過表

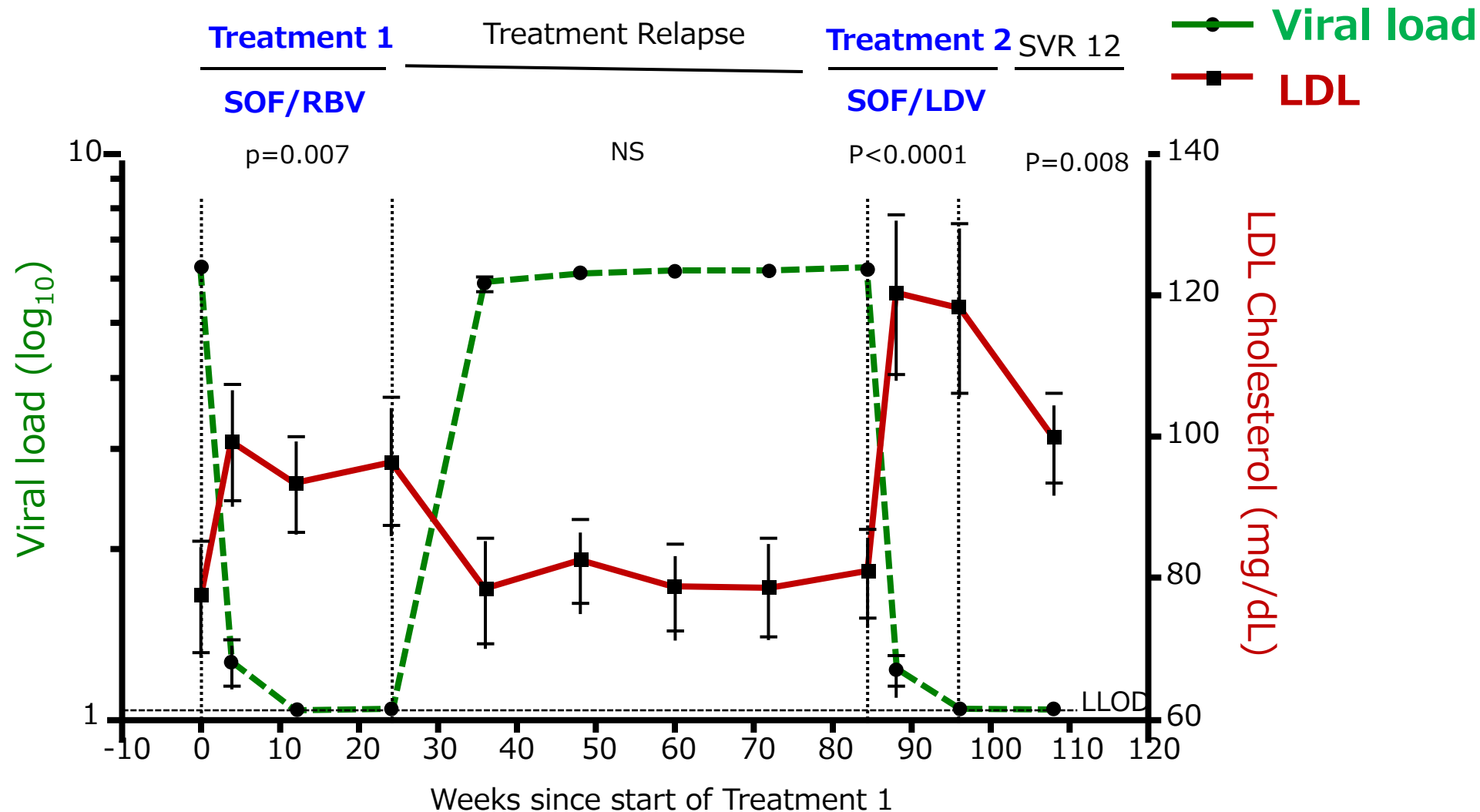
Increase in serum LDL-C lags behind treatment-induced HCV viral decline

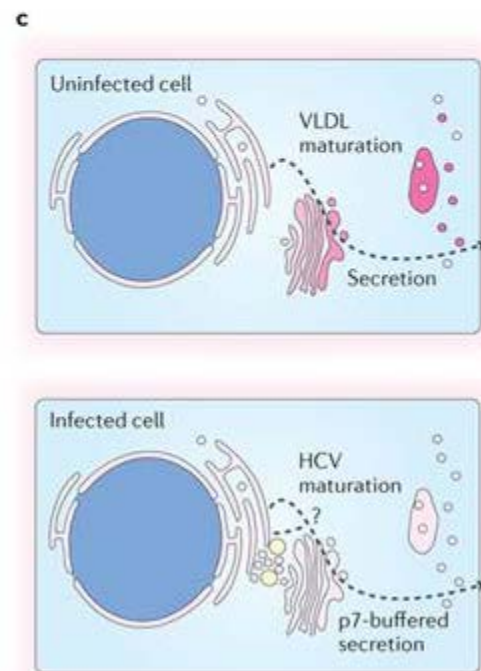
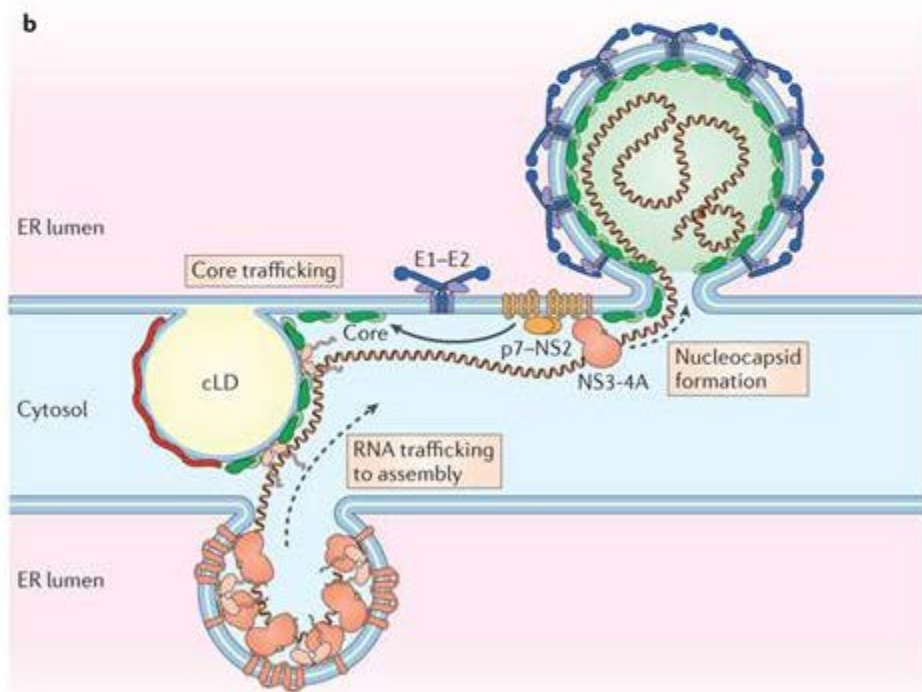
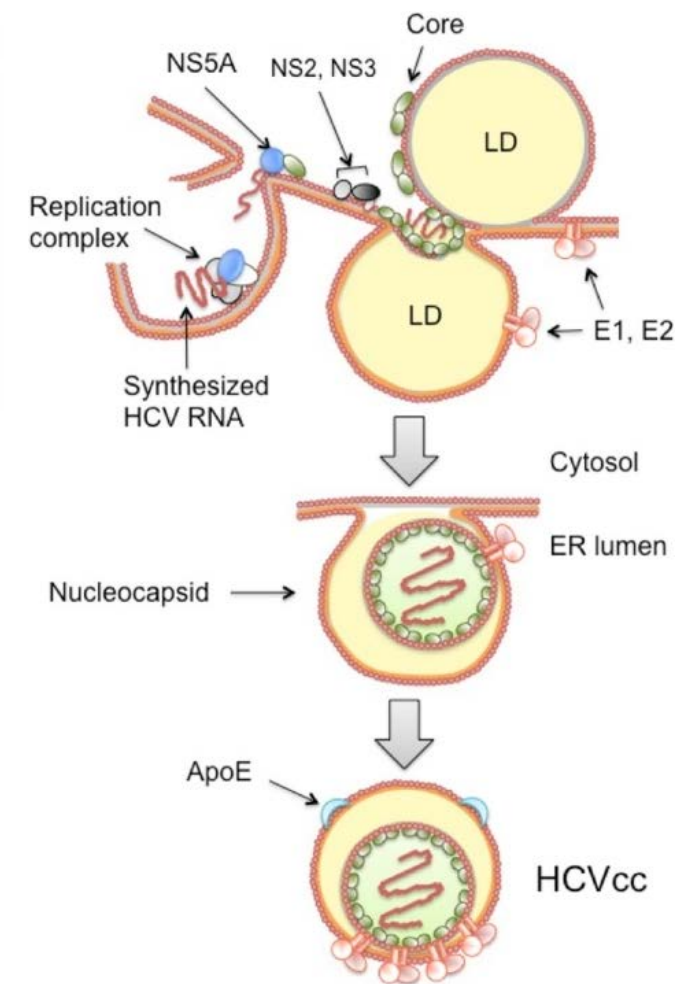
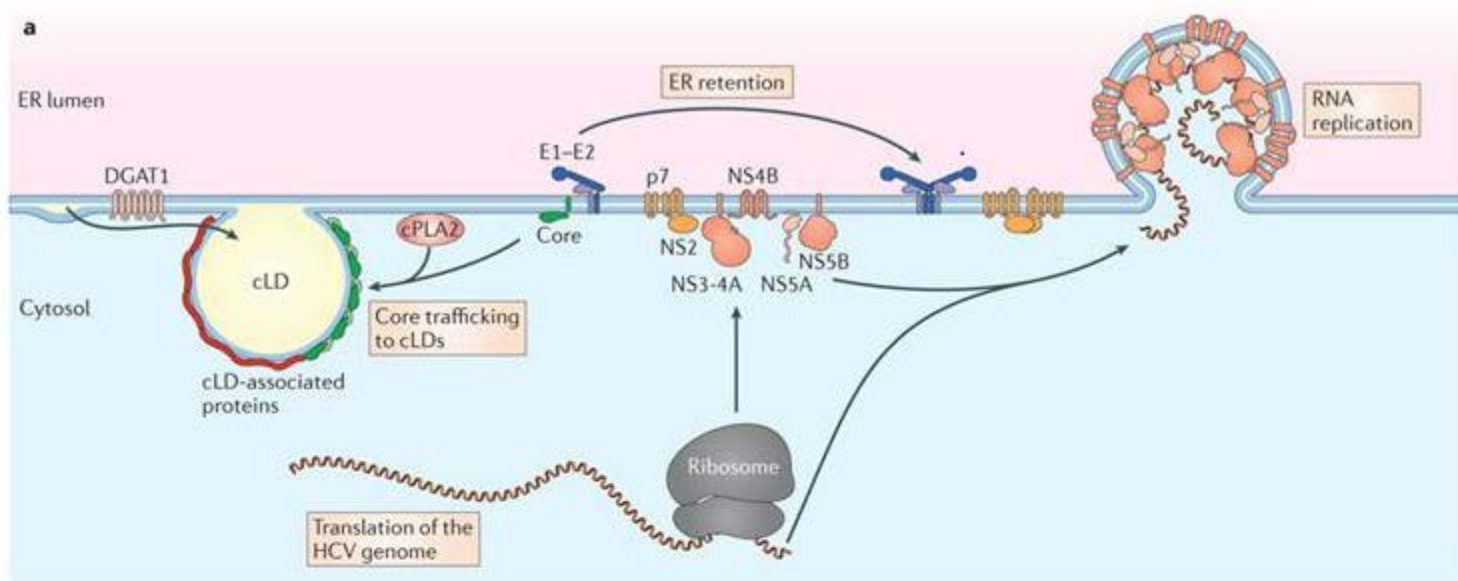
Viral load and LDL-C concentration from 34 HIV/HCV-coinfected subjects treated with 12 weeks of LDV and SOF HCV therapy.



Serum LDL correlates with treatment-induced HCV suppression.

Viral load and LDL concentration only from the 14 patients who relapsed on the SPARE protocol (SOF1RBV) and were retreated on the SYNERGY protocol with 12 weeks of SOF and LDV are shown.





Lindenbach, B.D. and Rice, C.M. *Nature Reviews Microbiolog.* 2013.11.688-700.

HBV再活性化を呈した50歳代女性

経過表

DAAの再治療

The importance of resistance to direct antiviral drugs in HCV infection in clinical practice

Sarrazin C

Journal of Hepatology 2015 Sep
DOI: (10.1016/j.jhep.2015.09.011)

- ①違うクラスのDAAを用いる
- ②治療期間を長くする (12週から24週に)
- ③リバビリンを追加する
- ④多重耐性例にはペグインターフェロンを用いた臨床研究も考慮

本日の目次

1.病態別の患者の実態把握のための調査
および肝炎患者の病態に即した相談に対
応できる相談員育成のための研修プログ
ラム策定に関する研究 2011-2013年

2.肝疾患患者を対象とした相談支援シ
ステムの構築、運用、評価に関する研
究 2014-2016年

3.相談内容から研究テーマを模索する

Q1:B型慢性肝炎核酸アナログ製剤の選択

Q2 : B型とC型の重複感染例のIFNフリー治療

Q3:IFNフリー治療の薬剤選択

各種インターフェロンフリー治療法の特徴（八橋作成）

	治療期間	HCV2型	HCV1型	重度の 腎機能 低下例	Y93変異 あり例	L31変異 あり例	Ca拮抗剤 の併用
ソホスブビル/ リバビリン	12週間	○	X (適応外)	X (禁忌)			
ダクラタスビル/ アスナプレビル	24週間	X (適応外)	○ (HCV1 b)	使用可能 (透析例で の本邦での 報告あり)	SVR率 低下	SVR率 低下	
レジパスビル/ ソホスブビル (ハーボニー)	12週間	X (適応外)	○ (HCV 1 a/1b)	X (禁忌)	SVR率に影 響 しない	SVR率に 影響 しない	
オムビタスビル/ パリタプレビル/ リトナビル配合剤 (ヴィキラックス)	12週間	X (適応外)	○ (HCV1 b)	使用可能 (海外で報告 あり)	SVR率 低下	SVR率に影 響 しない	重篤な 副作用 報告あり

Q4：核酸アナログ開始後のALT値上昇

Q5.完治と言われたのにC型肝炎と言われた？

Q6：ALT値正常例のIFNフリー治療例は保険適応か？

Q7 : HBV感染の感染性と差別、偏見

Q8 : B型肝炎、妊娠、出産を希望

Q9 : IFNフリー治療後の再燃、再治療法は

Q10：SVR判定後もウルソ服用は必要か？

Q11 : SVR後コレステロール、LDLが高いと言われた

1.病態別の患者の実態把握のための調査
および肝炎患者の病態に即した相談に対
応できる相談員育成のための研修プロ
グラム策定に関する研究 2011-2013年

2.肝疾患患者を対象とした相談支援シス
テムの構築、運用、評価に関する研究
2014-2016年



国立病院機構、肝疾患共同研究施設 37病院